

SRP-X700P Manager User Control Panel

取扱説明書（コントロール ソフトウェア マニュアル）

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠ 警告 ソフトウェア製品は、安全のための注意事項を守らないと、健康を害することがあります。

この取扱説明書には、健康を守るための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しております。この取扱説明書とデジタルパワードミキサー(本体)の取扱説明書をよくお読みのうえ、製品をお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

ご注意

付属のCD-ROMには、コントロール ソフトウェア マニュアル(日本語、英語、仏語、独語、西語、伊語、中国語)が収録されています。

SRP-X700P

SRP-X700P Manager
User Control Panel

Ver. 1.5
Ver. 1.3

安全のために

ソフトウェア製品は、まちがった使いかたをすると、健康を害するおそれがあります。

健康を守るために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

下記の注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記されています。

警告表示の意味

マニュアルおよび製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、健康を害するおそれがあります。

行為を禁止する記号



禁止



下記の注意を守らないと、
健康を害するおそれがあります。

ディスプレイ画面を長時間継続して見ない



ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐにコンピューターの使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは、医師の診断を受けてください。

キーボードを使いすぎない



禁止

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐにコンピューターの使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは、医師の診断を受けてください。

• Microsoft®、Windows®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

目次

△警告	2
主な特長	4
使用上のご注意	4
このマニュアルについて	4
インストール	5
専用USBドライバをインストールする	5
SRP-X700P Managerをインストールする	6
User Control Panelをインストールする	6
アンインストール	6
第1章 SRP-X700P Manager編	7
画面各部の名前と機能	7
共通操作部	7
メニューバー	7
ボトムメニューバー	8
BLOCK画面	9
INPUT画面	10
INPUT OVERVIEW画面	10
INPUT EQ画面	12
ROUTING画面	14
AUTOMATIC MIXER SETUP画面	15
OUTPUT画面	17
OUTPUT OVERVIEW画面	17
OUTPUT EQ画面	19
REMOTE画面	20
USER DEFINE画面	23
GROUP FADER画面	29
SCENE画面	30
第2章 User Control Panel 編	32
画面各部の名前と機能	32
トラブル時の対処	33

主な特長

SRP-X700P付属のCD-ROMには2つのアプリケーションソフトと1つのドライバーソフトが収録されています。Windows環境のコンピューターにインストールすることにより、本体のパラメーター設定をおこなったり、本体の基本操作と、接続されたソニー製DVD/VTR/CD/MDなどの基本操作をおこなうことができます。

SRP-X700P Manager

本体の全機能の設定ができます。

使用環境や機器に合わせた各種設定および最大で20のシーンメモリー、設定ファイルの保存などSRP-X700Pを使う上でのあらゆる機能が設定できます。

User Control Panel

本体の基本操作(音量調整、入力切換、シーンリコール)やSRP-X700Pに接続しているソニー製機器(DVD/VTR/CD/MD)の基本操作(再生、停止、早送り、巻き戻し等)をコンピューターから簡単に操作することができます。

使用上のご注意

- ・ 本ソフトウェアを使用するための推奨動作環境は以下のとおりです。

OS : - Microsoft® Windows® 98 Second Edition,
Microsoft® Windows® Millennium Edition,
Microsoft® Windows® 2000 Professional,
Microsoft® Windows® XP Professional*,
Microsoft® Windows® XP Home Edition*

お使いになるコンピューターに上記のOSが工場出荷時にインストールされていることが必要です。

アップグレード環境での動作保証は致しません。

*リモートデスクトップおよびユーザーの簡易切り替えはできません。

CPU : Celeron 400MHz以上

メモリー : 128MB以上

ハードディスクの空き容量 : 10MB以上

- ・ USB端子が標準で装備されていること。

- ・ 同時に使われるUSB機器およびハブによっては動作致しません。必ずUSB 2.0適合品をお使いください。

- ・ 推奨環境の全てのパソコンについて動作を保証するものではありません。

- ・ 本機に接続するUSBケーブルはUSB 2.0適合品をお使いください。その他のケーブルをご使用の場合、正しく動作しないことがあります。

- ・ SRP-X700P Manager および User Control Panel を使用する際は、コンピューターをスタンバイまたは、休止状態にしないよう、コントロールパネルから電源オプション(Microsoft® Windows® 2000 Professional, Windows® XP Professional, Windows® XP Home Editionの場合)または、電源の管理(Microsoft® Windows® 98 SE, Windows® Me の場合)を選択し、システムスタンバイおよび、システム休止状態の項目を「なし」に設定してください。
- ・ 本体を接続し、これらのソフトウェアを使用しているとき、スタンバイまたは、休止状態になると本体との通信が途切れため、ソフトウェアを再起動する必要があります。
- ・ 本ソフトウェアの仕様は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。
- ・ アプリケーションソフトウェアは、この取扱説明書の画面と一部異なる場合があります。

このマニュアルについて

このマニュアルはSRP-X700Pをコンピューターを介してご使用になる場合の操作について説明しています。

第1章ではSRP-X700P Managerを用いた本体のパラメーター設定を、第2章ではUser Control Panelを用いての本体や接続されているソニー製機器の操作方法を説明します。本体の取扱説明書とともにご覧ください。

インストール

SRP-X700P ManagerおよびUser Control Panelを本体と接続する為には専用USBドライバが必要です。

専用USBドライバをインストールする

- 専用USBドライバは、付属のCD-ROMに収録されています。
 - 画面の指示に従って、専用USBドライバをインストールします。コンピューターによっては再起動することもあります。
- ① コンピューターの電源を入れ、Windowsを起動します。
② 付属のCD-ROMを、コンピューターのCD-ROMドライブにセットします。
③ 本体の電源を入れ、本体前面または、裏面のコネクタとコンピューターのUSBコネクタをUSBケーブルで接続します。
④ 本体のUSBデバイスが認識され、「次の新しいドライバを検索しています…」というダイアログボックスが表示されますので、「次へ >」をクリックします。
⑤ 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択して「次へ >」をクリックします。(図1)

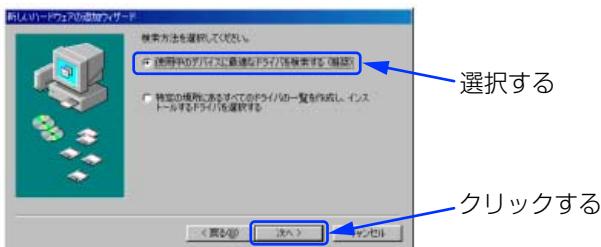


図1

- ⑥ 「検索場所の指定(L):」をチェックしてから「参照」をクリックし、付属のCD-ROMの「Driver」フォルダを指定して「次へ >」をクリックします。(図2)

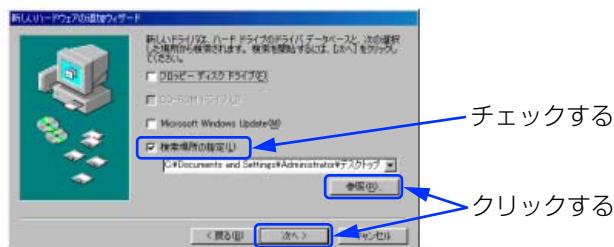


図2

- ⑦ 「次のデバイス用のドライバファイルを検索します…」という画面が表示されたら「次へ >」をクリックします。
⑧ 「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」という画面が表示されたら「完了」をクリックします。
⑨ SRP-X700P本体のUSBポートが、「不明なデバイス」として認識されますので「次へ >」をクリックします。

- ⑩ 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択して「次へ >」をクリックします。(図3)

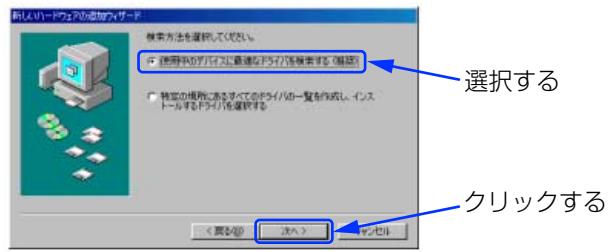


図3

- ⑪ 「検索場所の指定(L):」をチェックしてから「参照」をクリックし、付属のCD-ROMの「Driver」フォルダを指定して「次へ >」をクリックします。(図4)

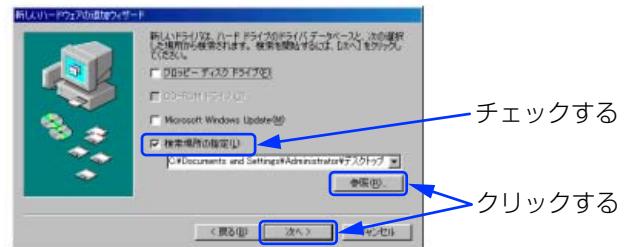


図4

- ⑫ 「次のデバイス用のドライバファイルを検索します…」という画面が表示されたら「次へ >」をクリックします。
⑬ 「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」という画面が表示されたら「完了」をクリックします。

以上で専用USBドライバのインストールは完了です。

SRP-X700P Managerをインストールする

- ① 付属のCD-ROMを、コンピューターのCD-ROMドライブにセットします。
SRP-X700P Managerフォルダを開きます。
Setupアイコンをダブルクリックします。
- ② SRP-X700P Managerのインストール画面が起動します。
- ③ Welcome to the SRP-X700P Manager installation program.という画面が表示されたらOKをクリックします。
- ④ Begin the installation by clicking the button below.という画面が表示されたら画面左上のSetupアイコンをクリックします。(図1)



図1

- SRP-X700P ManagerフォルダはC:\Program Filesに作成されます。インストール先を変更する場合には画面右下のChange Directoryをクリックして変更します。
- ⑤ Setup will add items to the group shown in the Program Group box. You can enter a new group name or select one from the Existing Groups LIST.という画面が表示されたら画面左下のContinueをクリックします。
 - ⑥ SRP-X700P Manager Setup was completed successfullyという画面が表示されたらOKをクリックします。

以上でSRP-X700P Managerのインストールは完了です。

User Control Panelをインストールする

- ① 付属のCD-ROMを、コンピューターのCD-ROMドライブにセットします。
User Control Panelフォルダを開きます。
Setupアイコンをダブルクリックします。
- ② User Control Panelのインストール画面が起動します。
- ③ Welcome to the User Control Panel installation program.という画面が表示されたらOKをクリックします。
- ④ Begin the installation by clicking the button below.という画面が表示されたら画面左上のSetupアイコンをクリックします。(図2)



図2

- User Control PanelフォルダはC:\Program Filesに作成されます。インストール先を変更する場合には画面右下のChange Directoryをクリックして変更します。
- ⑤ Setup will add items to the group shown in the Program Group box. You can enter a new group name or select one from the Existing Groups LIST.という画面が表示されたら画面左下のContinueをクリックします。
 - ⑥ User Control Panel Setup was completed successfullyという画面が表示されたらOKをクリックします。

以上でUser Control Panelのインストールは完了です。

アンインストール

- ① スタートメニューをクリックして「設定(S)」を選択し、コントロールパネルをクリックして開きます。
- ② 「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックし、「インストールと削除」タブの一覧から削除したいアプリケーション(SRP-X700P ManagerまたはUser Control Panel)、ドライバ(SRP-X700P USB Driver)を選択します。
- ③ 「追加と削除(R)...」をクリックします。

以上でアンインストールは完了です。

ご注意

Microsoft® Windows® 2000 Professional, Windows® XP Professional, Windows® XP Home Editionをお使いの場合は必ずアドミニストレータ(管理者)権限をもったユーザー名でログオンしてインストール、アンインストールをおこなってください。

第1章 SRP-X700P Manager 編

SRP-X700P Managerでは、SRP-X700P本体の全パラメーター設定をおこなうことができます。

起動時の動きについて

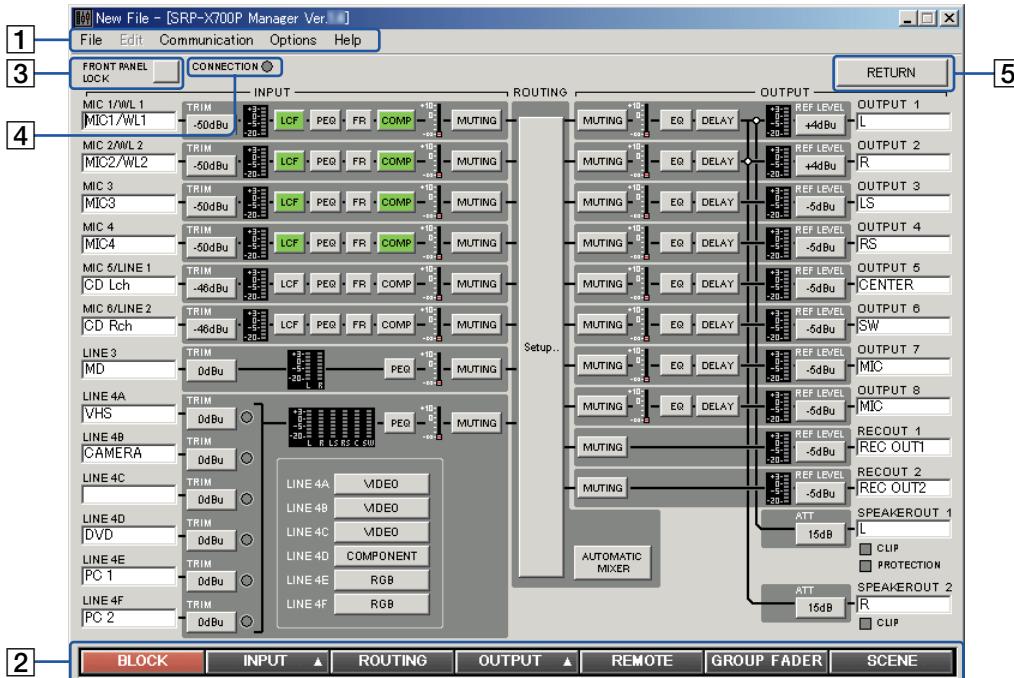
本体とUSBケーブルで接続した状態で、SRP-X700P Managerを起動した場合は、本体の現在の設定状態を読み取ります。本体と接続していない状態で、SRP-X700P Managerを起動した場合は、工場出荷時の設定になります。また、既存の設定ファイル(*.x7p)をダブルクリックして起動した場合は、その設定ファイルに保存されている状態を本体に送信します。

このマニュアルで使用されている画面は全て工場出荷時の状態です。

画面各部の名前と機能

共通操作部

全ての画面に共通して表示されます。



① メニューバー

メニューのタイトルが表示されます。

基本設定および各設定画面に共通する操作をおこないます。

Fileメニュー

本ソフトウェアでは、20シーン分のパラメーターと、インフォメーションを1つの設定ファイル(*.x7p)として保存できます。

New : 新規に設定ファイルを作成する

設定ファイルは工場出荷の設定になります。

Open : 既存の設定ファイルを開く

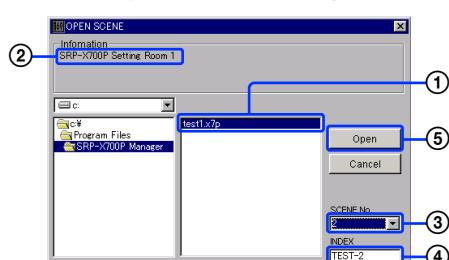
Open Scene : 既存の設定ファイルの20シーンの中から指定したシーン番号を開きます。

- ・ 設定ファイルを指定する。①
- ・ 指定した設定ファイルに設定されたインフォメーションが表示されます。②
- ・ シーンNo.を指定する。③
- ・ 指定したシーンNo.のインデックスが表示されます。④
- ・ Openボタンをクリックする。⑤

Save : 上書き保存する

Save As : 名前を付けて保存する

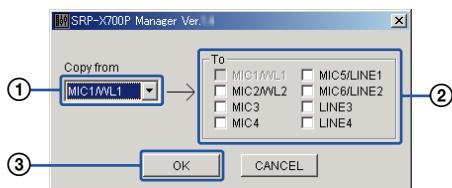
Exit : SRP-X700P Managerを終了する



画面各部の名前と機能

Editメニュー(INPUT画面、OUTPUT画面のみ表示)

Copy : パラメーターをコピーします。



任意のチャンネルのパラメーターを指定したチャンネルにコピーすることができます。複数のチャンネルを同じ設定で使用したいときなどに使用します。ただし、インデックス、TRIM(INPUT)、フィードバックリデューサー(INPUT)、REF LEVEL(OUTPUT)は、コピーされません。

- ・ コピー元のチャンネルを選択する。①
- ・ コピー先のチャンネルにチェックをつけて選択する。②
- ・ OKを押す。③

Communicationメニュー

- ・ Disconnect : 本体との通信を切断します。
- ・ Connect : ダイアログボックスで接続方法を選択します。
Download: 本体のパラメーターをSRP-X700P Managerに転送します。
Upload: SRP-X700P Managerで設定したパラメーターを本体に転送します。

Optionsメニュー

- ・ Password Setting : パスワードを設定することができます。

パスワードの設定方法

パスワード設定ダイアログボックスが表示されます。Password欄にパスワードを入力し、Confirm password欄にも確認のため、もう1度同じパスワードを入力してOKボタンをクリックします。
パスワードは半角英数8文字までです。

ご注意

パスワードを忘れてしまうと次回から起動できなくなります。メモをとるなどして記録してください。パスワードを忘れたときは一度アンインストールしてから再インストールしてください。

- ・ Factory Preset : 全てのパラメーターを工場出荷時の設定にもどします。

ご注意

工場出荷時の設定に戻ると、元の設定には戻せませんので注意してください。

Helpメニュー

About : バージョン情報が表示されます。

② ボトムメニューバー

各パラメーターの設定画面を選択します。

INPUTボタンとOUTPUTボタンに関してはサブメニューが表示されます。

③ FRONT PANEL LOCKボタン

誤操作防止のため、本体前面のボタン、フェーダーの操作を受け付けないようにLOCKします。LOCK時は本体前面のLOCKインジケーターとともにボタンが赤く点灯します。

④ CONNECTIONインジケーター

本体と通信しているときは緑に点灯します

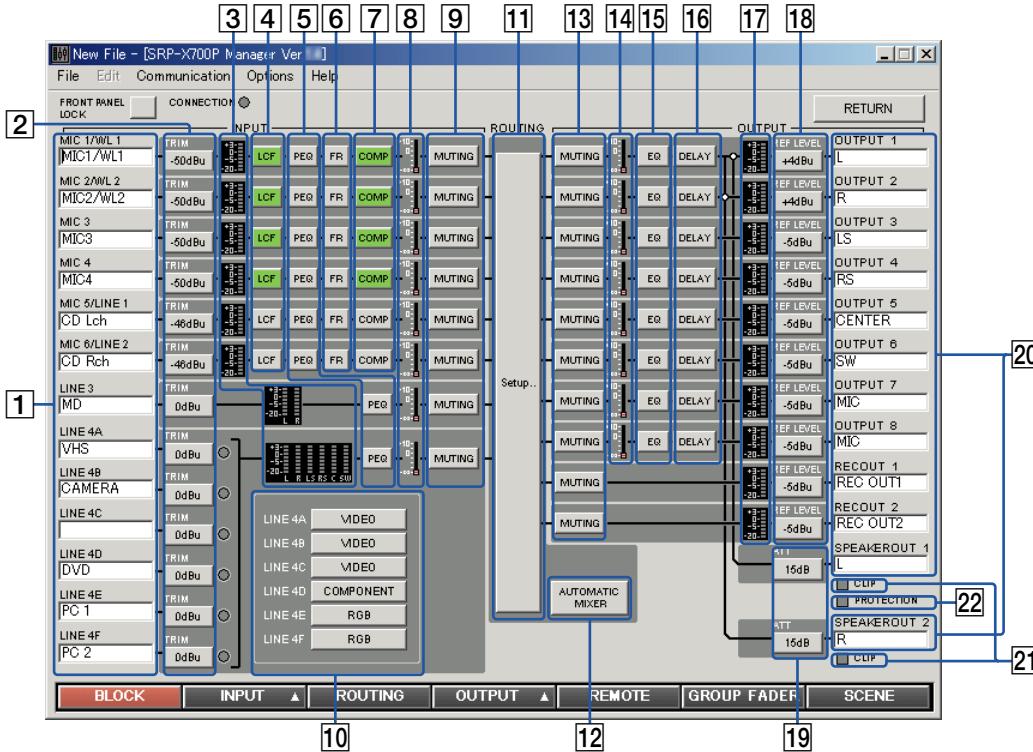
⑤ RETURNボタン

1つ前に選択していた画面に戻ります。

1.1 BLOCK画面

本体の内部ブロックに従い設定状態や信号レベルを表示します。

全てのボタンはクリックすると関連する設定画面にジャンプします。ON/OFFの切り換えやパラメーターの設定は各設定画面にておこないます。



① INPUTインデックス

各入力チャンネルのインデックスを入力します。
接続している機器名などを入力しておくとパラメーターを設定する際に信号系統の確認ができます。半角英数8文字、全角の場合4文字まで入力できます。

② TRIMボタン

ボタン上にはINPUT OVERVIEW画面で設定した各入力チャンネルの基準レベルを表示します。

③ 入力レベルメーター

各入力チャンネルの入力信号レベルを表示します。

④ LCF(ローカットフィルター)ボタン

ONのときは緑に点灯します。

⑤ PEQ(パラメトリックイコライザー)ボタン

ONのときは緑に点灯します。

⑥ FR(フィードバックリデューサー)ボタン

ONのときは緑に点灯します。

⑦ COMP(コンプレッサー)ボタン

ONのときは緑に点灯します。

⑧ INPUTフェーダー表示

INPUTフェーダーの設定値を表示します。

⑨ INPUT MUTINGボタン

ミューティング中は赤く点灯します。

⑩ INPUT VIDEO TYPE表示

LINE4の4A～4Fのビデオの入力信号形式を表示します。

⑪ Setup..ボタン

ROUTING画面にジャンプします。

⑫ AUTOMATIC MIXERボタン

オートマチックミキサー動作中は緑に点灯します。

⑬ OUTPUT MUTINGボタン

ミューティング中は赤く点灯します。

⑭ OUTPUTフェーダー表示

OUTPUTフェーダーの設定値を表示します。

⑮ EQ(イコライザー)ボタン

ONのときは緑に点灯します。

⑯ DELAYボタン

ONのときは緑に点灯します。

⑰ 出力レベルメーター

各出力チャンネルの出力信号レベルを表示します。

⑱ REF LEVELボタン

ボタン上にはOUTPUT OVERVIEW画面で設定した各出力チャンネルの基準レベルを表示します。

⑲ ATT(アッテネーター)ボタン

内蔵パワーアンプへの送出ATTレベルを表示します。

⑳ OUTPUTインデックス

各出力チャンネルのインデックスを入力します。半角英数8文字、全角の場合4文字まで入力できます。

㉑ CLIPインジケーター

内蔵パワーアンプがクリップしたときに赤く点灯します。
頻繁に点灯しないようにOUTPUT OVERVIEW画面の

㉔ ATTで送出レベルを調整してください。

㉕ PROTECTIONインジケーター

パワーアンプの保護回路が動作しているときに赤く点灯します。

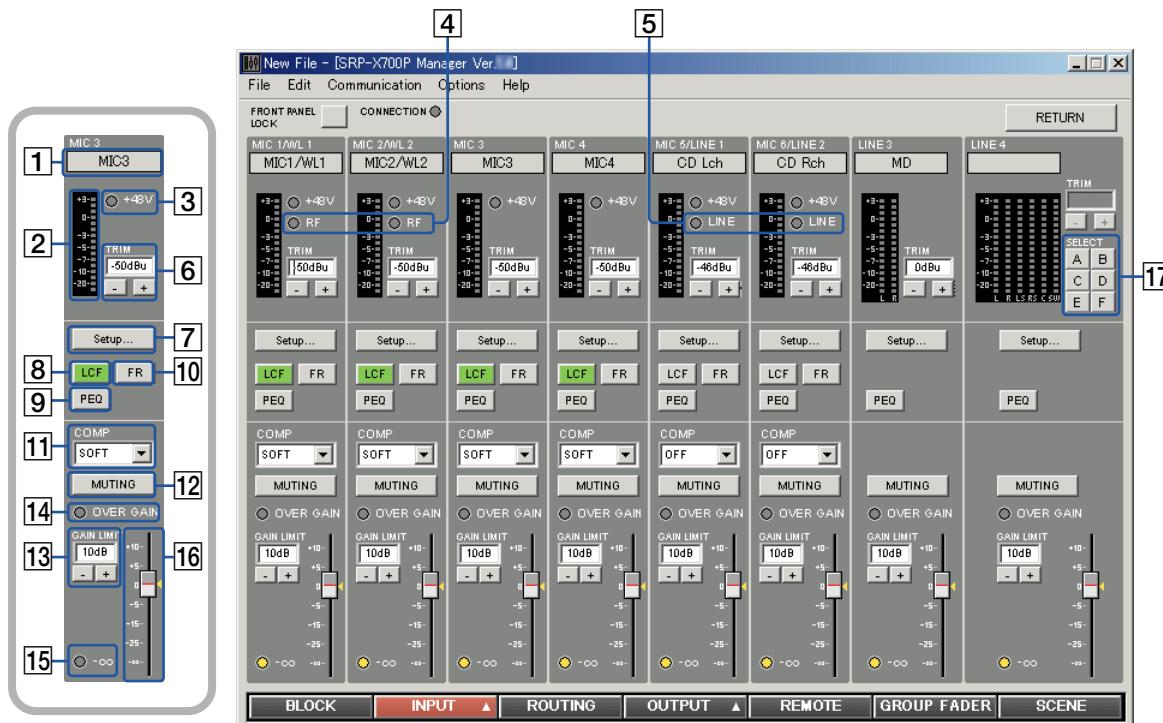
画面各部の名前と機能

1.2 INPUT画面

SRP-X700P入力部のパラメーター設定をおこなう画面です。

1.2.1 INPUT OVERVIEW画面

オーディオミキサーのインプットモジュールに相当する画面で以下の設定をおこないます。



① INPUTインデックス

BLOCK画面で入力したインデックスを表示します。

② INPUTレベルメーター

TRIM調整をおこなったとの入力信号レベルをVU応答にて表示します。

③ +48Vインジケーター

本体裏面の+48VボタンがONのときに赤く点灯します。

④ RFインジケーター

本体に装着したワイヤレスチューナーユニットがRF信号を受信しているときに緑に点灯します。点灯しているときはワイヤレスチューナーの信号が選択されます。

⑤ LINEインジケーター

本体裏面のMIC/LINE切り換えボタンがLINEのときに緑に点灯します。

⑥ TRIM調整

入力チャンネルごとに基準入力レベルを調整します。

±ボタンをクリックすることでMIC1/WL1,MIC2/WL2,MIC3,MIC4は-60dBu~-45dBu、LINE3,LINE4は-10dBu~0dBu、MIC5/LINE1,MIC6/LINE2はMICを選択したときは-60dBu~-45dBu、LINEを選択したときでは-10dBu~+5dBuの範囲で1dBステップで調整できます。また、数値の直接入力もできます。

INPUTレベルメーターの0VUが時々点灯する程度に調整してください。

⑦ Setup...ボタン

ローカットフィルター、フィードバックリデューサー、パラメトリックイコライザーの設定をおこなうINPUT EQ画面へジャンプします。

⑧ LCF(ローカットフィルター)ボタン

ローカットフィルターのON/OFFをおこないます。ONのときは緑に点灯します。吹かれノイズ等の低域成分を除去し、クリアな音質にします。

⑨ PEQ(パラメトリックイコライザー)ボタン

パラメトリックイコライザーのON/OFFをおこないます。ONのときは緑に点灯します。

PEQの設定は⑦ Setup...ボタンを押しておこないます。

⑩ FR(フィードバックリデューサー)ボタン

INPUT EQ画面で設定したフィードバックリデューサーのON/OFFをおこないます。ONのときは緑に点灯します。FRの設定は⑦ Setup...ボタンを押しておこないます。

⑪ COMP(コンプレッサー)設定ボックス

入力信号のダイナミックレンジを圧縮し、音量をそろえる効果があります。

コンプレッサーの設定はSOFT/MID/HARDの3段階に設定できます。オートマチックミキサーがONの場合、コンプレッサーは自動的に設定されます。この場合、設定を変えることはできません。

⑫ MUTINGボタン

各チャンネルの入力信号をミューティングします。ミューティング中は赤く点灯します。

⑬ GAIN LIMITと⑭ OVER GAINインジケーター

入力チャンネルの送出レベルは、⑯ INPUTフェーダーと本体のインプットフェーダーの加算値になります。

また、GROUP FADER画面・REMOTE画面の設定にて本体のマスター・ボリュームおよびリモート端子から音量コントロールがおこなわれているときは、その値がさらに加算されます。

このように複数のボリュームによるレベルの上げ過ぎを防ぐために⑬ GAIN LIMITで送出レベルの上限を決めることができます。[+] [-] ボタンをクリックすることにより+10dB～-10dBの範囲で1dBステップで調整できます。

また、数値の直接入力もできます。

送出レベルがGAIN LIMITの値を超えたときに実際のレベルはGAIN LIMITの値に設定され、⑭ OVER GAINインジケーターが赤く点灯します。

⑮ -∞インジケーター

ミューティング中や、INPUTフェーダーが-∞レベルの位置にあるときなど、音が出ないときに黄色く点灯します。

⑯ INPUTフェーダー

フェーダー部分をドラッグすることにより、INPUTフェーダーを操作できます。

フェーダー横に表示される黄色いマーカーはINPUTフェーダーと本体の入力フェーダーを加算したフェーダー位置を表示します。

また、REMOTE画面、GROUP FADER画面にてこの入力チャンネルの音量をコントロールするよう設定されているとき、本体のマスター・ボリューム、REMOTE端子からのコントロールを受けたフェーダー位置を表示します。

(図1では、黄色いマーカーの位置は-25dBになります。)

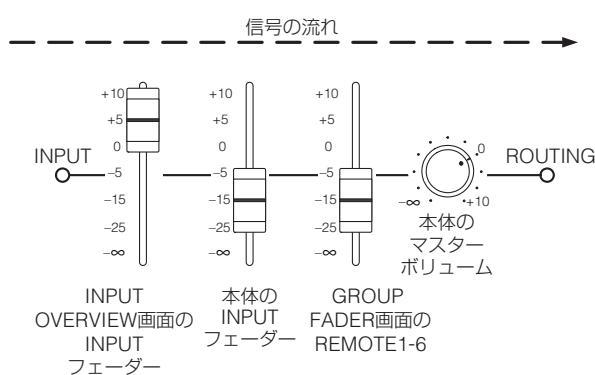


図1

⑰ LINE4入力セレクトボタン

LINE4にはA～Fの6系統の入力端子を装備しています。

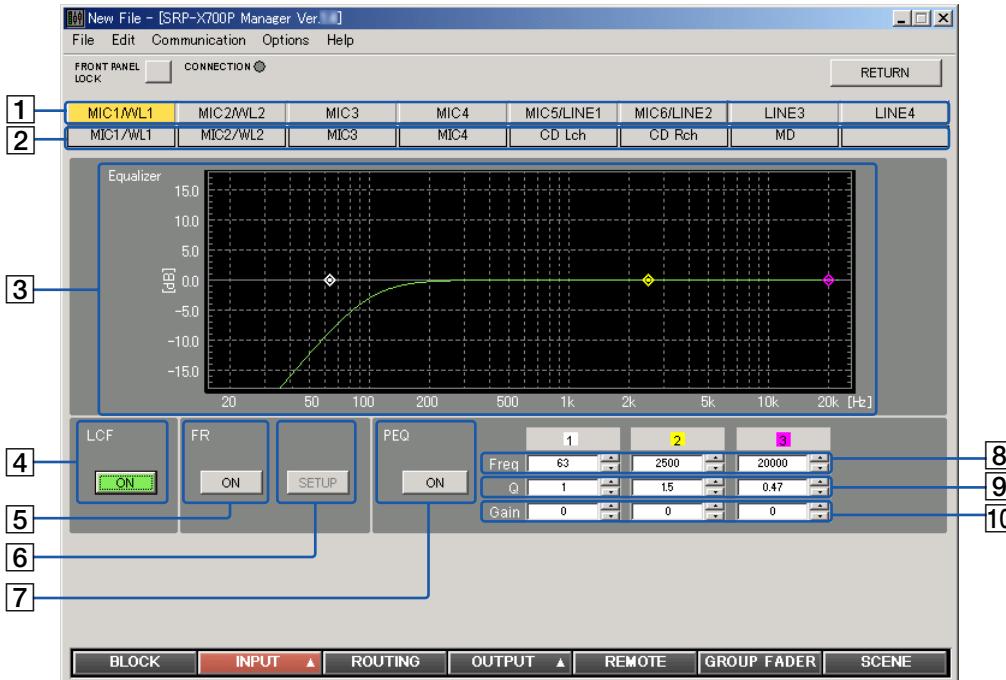
このボタンにより6系統のうち1つを選択できます。

選択されたボタンは緑に点灯します。

画面各部の名前と機能

1.2.2 INPUT EQ画面

SRP-X700P入力部のローカットフィルター、フィードバックリデューサー、パラメトリックイコライザーの設定をおこなう画面です。



① チャンネル選択ボタン

設定をおこなうINPUTチャンネルを選択します。
選択されたボタンは黄色く点灯します。

② INPUTインデックス

BLOCK画面で入力したインデックスを表示します。

③ 周波数特性グラフ

ローカットフィルター、パラメトリックイコライザーおよびフィードバックリデューサーの総合周波数特性を表示します。

ローカットフィルター部

④ LCF(ローカットフィルター)ボタン(100Hz, -12dB/oct)

ローカットフィルターのON/OFFをおこないます。
ONのときは緑に点灯します。

フィードバックリデューサー部

ハウリングが発生する周波数をあらかじめ検出し、その周波数のゲインを下げるこことによってハウリングの抑制をおこないます。

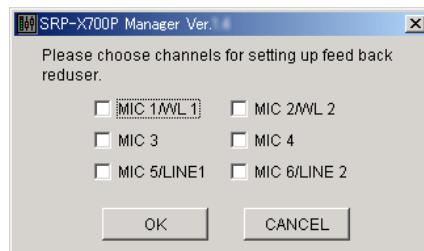
⑤ FR(フィードバックリデューサー)ボタン

⑥ SETUPボタンにより検出したハウリングポイントに対してハウリングの抑制をおこないます。
ONのときは緑に点灯します。

⑥ SETUPボタン

ハウリングポイントの検出をおこないます。

- INPUT OVERVIEW画面のTRIM調整とINPUTフェーダー、OUTPUT OVERVIEW画面のREF LEVEL選択ボックスとOUTPUTフェーダーで適正な音量に調整します。
- セットアップボタンをクリックするとチャンネル選択のダイアログボックスが表示されます。



- 検出するチャンネルを選択します。
- OKを押すと検出を開始します。
- 検出が完了するとフィードバックリデューサーはONになります。

ご注意

- 検出を開始する前に、マイクを通常お使いになる場所に設置してください。

パラメトリックイコライザ一部

MIC1/WL1,MIC2/WL2,MIC3,MIC4,MIC5/LINE1,MIC6/LINE2は3バンド、LINE3,LINE4は2バンドのパラメトリックイコライザーを装備しています。▲▼ボタンをクリックすることで各バンドごとに以下のパラメーターを可変できます。また、数値を直接入力することもできます。中心周波数とGAINについてはマーカ部分をマウス等でドラッグすることにより可変できます。QはQ設定ボックスで入力します。また、マーカ部分を右クリックするとゲインを0dBに戻します。

⑦ PEQ(パラメトリックイコライザー)ボタン

パラメトリックイコライザーのON/OFFをおこないます。

ONのときは緑に点灯します。

⑧ 周波数設定ボックス

25Hz～100Hz、14kHz～20kHzは1/3octステップ、

100Hz～14kHzは1/12octステップで設定できます。

⑨ Q設定ボックス

0.15～22の範囲で設定できます。

⑩ GAIN設定ボックス

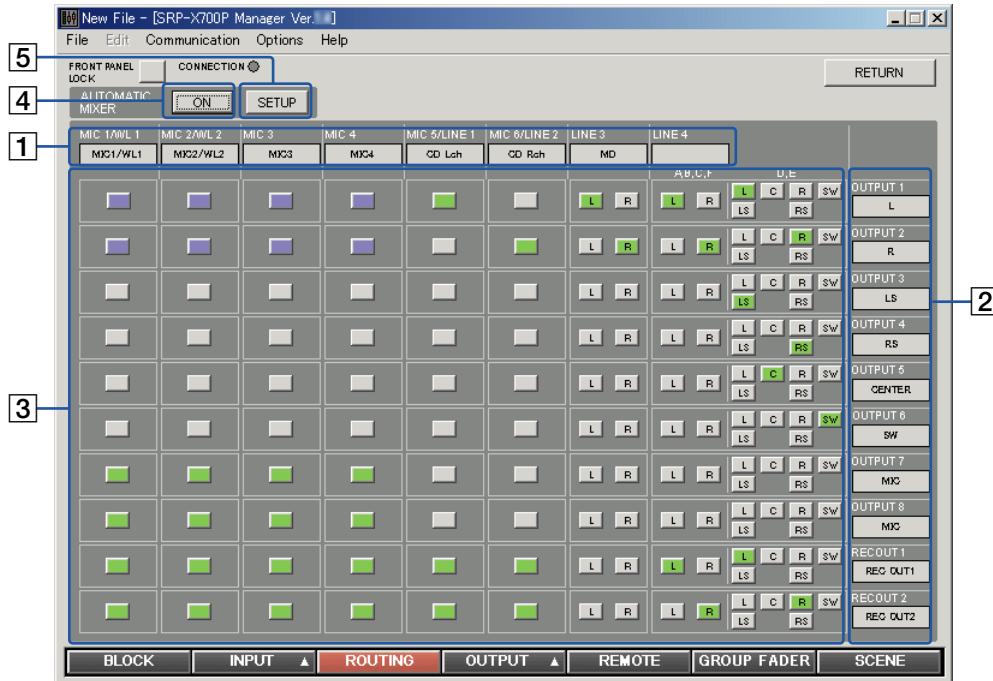
-15dB～+15dBの範囲でGAINを0.5dBステップで設定

できます。

画面各部の名前と機能

1.3 ROUTING画面

入力信号をどの出力チャンネルへ送り出すかを設定する画面です。



① INPUTインデックス

BLOCK画面で入力した各INPUTチャンネルのインデックスを表示します。

② OUTPUTインデックス

BLOCK画面で入力した各OUTPUTチャンネルのインデックスを表示します。

③ ASSIGNボタン

信号の入出力経路を選択します。ボタンを右クリックすると、メニューが表示され、-20dB, -15dB, -12dB, -9dB, -6dB, -3dB, 0dBのうちから送出レベルを選択できます。0dBでONにするとボタンは緑に点灯し、-20dB~-3dBでONにするとボタンは青紫に点灯します。

💡 ボタンのうえにポインタをおくと現在の送出レベルが表示されます。

オートマチックミキサー部

SRP-X700Pのオートマチックミキサーは、入力ゲート、入力コンプレッサー、および出力リミッターにより構成されています。また、NOM(Number of Open Microphones attenuated)による自動音量調整機能や、ONLY ONE機能、LAST ON機能を備えています。

これらの機能により、音量を一定に保つと同時に、ハウリングの抑制や、背景ノイズを低減することによりクリアな音質にします。

④ ONボタン

オートマチックミキサーのON/OFFをおこないます。ONのときは緑に点灯します。

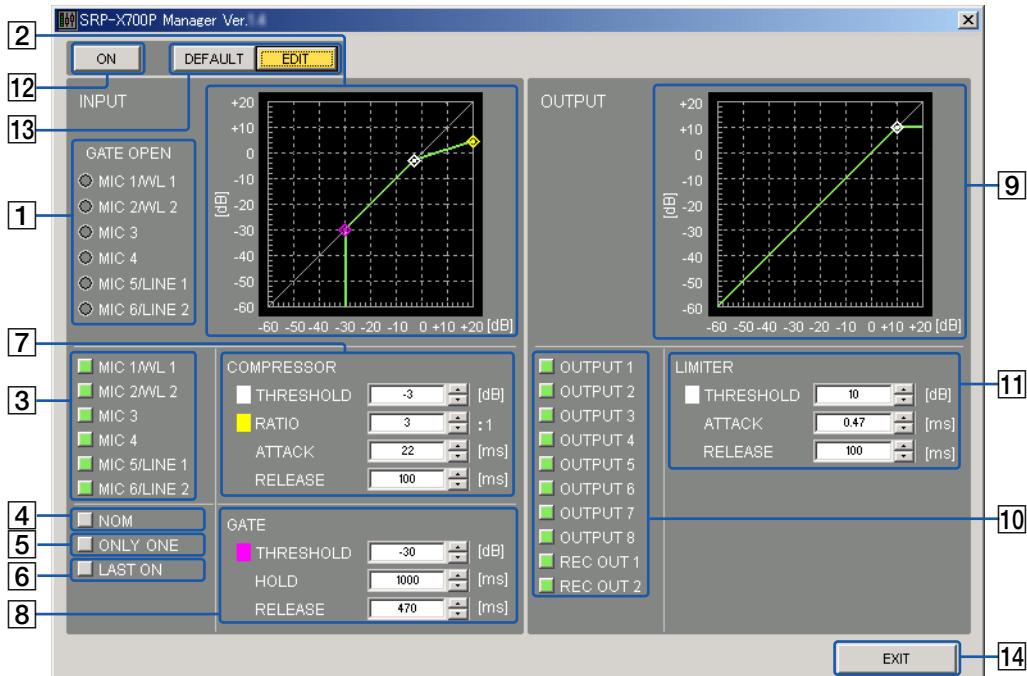
ONにするとINPUT画面のコンプレッサーも同時に設定されます。

⑤ SETUPボタン

オートマチックミキサーの詳細設定をおこなうAUTOMATIC MIXER SETUP画面を呼び出します。

AUTOMATIC MIXER SETUP画面

オートマチックミキサーの詳細な設定をおこなう画面です。



① GATE OPENインジケーター

入力ゲートが開いているときは緑に点灯します。

② コンプレッサー・ゲート特性グラフ

マイク入力のコンプレッサーとゲートの特性を表示します。グラフ上のマーカーをマウスでドラッグすることで、コンプレッサーのスレショールド、レシオ、ゲートのスレショールドを調整することができます。0dBが基準レベルになります。

③ 入力チャンネル選択ボタン

オートマチックミキサーを有効にする入力チャンネルを選択します。

選択されたチャンネルは、ボタンが緑に点灯します。

④ NOMボタン

NOM(Number of Open Microphones attenuated)機能のON/OFFをおこないます。ONのときは緑に点灯します。

NOM機能は、開いているゲートの数が2倍になるごとにマイク入力の音量を自動的に3dB下げます。これにより、ハウリングの発生を抑えることができます。

⑤ ONLY ONEボタン

ONLY ONE機能のON/OFFをおこないます。ONのときは緑に点灯します。

ONLY ONE機能は、最初に入力があったマイク入力チャンネルのゲートのみを開くことで、一度に使用できるマイクを1つのチャンネルに限定します。

ご注意

入力ゲートのホールドタイムとリリースタイムを大きな値に設定すると、ONLY ONE機能によって開いたマイク入力のゲートが閉じるまで、他のマイク入力の音声が出ません。

入力ゲートのホールドタイムとリリースタイムを適切な値に調整してください。

⑥ LAST ONボタン

LAST ON機能のON/OFFをおこないます。

ONのときは緑に点灯します。

LAST ON機能は、最後に入力があったマイク入力チャンネルのゲートを開いたままにします。

⑦ コンプレッサー設定

入力コンプレッサーのパラメーターを調整します。

入力コンプレッサーは、フィードバックリデューサー通過後の信号を検出して動作しますので、INPUTフェーダーの設定によって、入力コンプレッサーの動作が変化することはありません。

- ・ THRESHOLD : スレショールドを設定します。
-60~+20dBまで1dBステップで調整できます。
- ・ RATIO : レシオを設定します。1:1~∞:1まで14ステップで調整できます。
- ・ ATTACK : アタックタイムを設定します。
0.1~1000msまで24ステップで調整できます。
- ・ RELEASE : リリースタイムを設定します。
10~10000msまで18ステップで調整できます。

画面各部の名前と機能

⑧ ゲート設定

入力ゲートのパラメーターを調整します。
入力ゲートは、入力コンプレッサー通過後の信号を検出して動作しますので、INPUTフェーダーの設定によって、入力ゲートの動作が変化することはありません。

- ・ THRESHOLD : スレショールドを設定します。
-60~0dBまで1dBステップで調整できます。
- ・ HOLD : ホールドタイムを設定します。
10~10000msまで18ステップで調整できます。
- ・ RELEASE : リリースタイムを設定します。
10~10000msまで18ステップで調整できます。

⑨ リミッター特性グラフ

出力リミッターの特性を表示します。
グラフ上のマーカーをマウスでドラッグすることで、出力リミッターのスレショールドを調整することができます。
0dBが基準レベルになります。

⑩ 出力チャンネル選択ボタン

オートマチックミキサーを有効にする出力チャンネルを選択します。
選択されたチャンネルは、ボタンが緑に点灯します。

⑪ リミッター設定

出力リミッターのパラメーターを調整します。
出力リミッターは、ディレイ通過後の信号を検出して動作します。

- ・ THRESHOLD : スレショールドを設定します。
0~+20dBまで1dBステップで調整できます。
- ・ ATTACK : アタックタイムを設定します。
0.1~1000msまで24ステップで調整できます。
- ・ RELEASE : リリースタイムを設定します。
10~10000msまで18ステップで調整できます。

⑫ AUTOMATIC MIXER ONボタン

オートマチックミキサーのON/OFFをおこないます。
ONのときは緑に点灯します。

⑬ DEFAULT/EDIT選択ボタン

オートマチックミキサーのパラメーターを、工場出荷値とこの画面で設定した値のどちらを使用するか選択します。
選択されたモードは黄色に点灯します。

DEFAULTを選択すると、各パラメーターを変更できなくなります。

⑭ EXITボタン

AUTOMATIC MIXER SETUP画面を閉じて、ROUTING画面に戻ります。

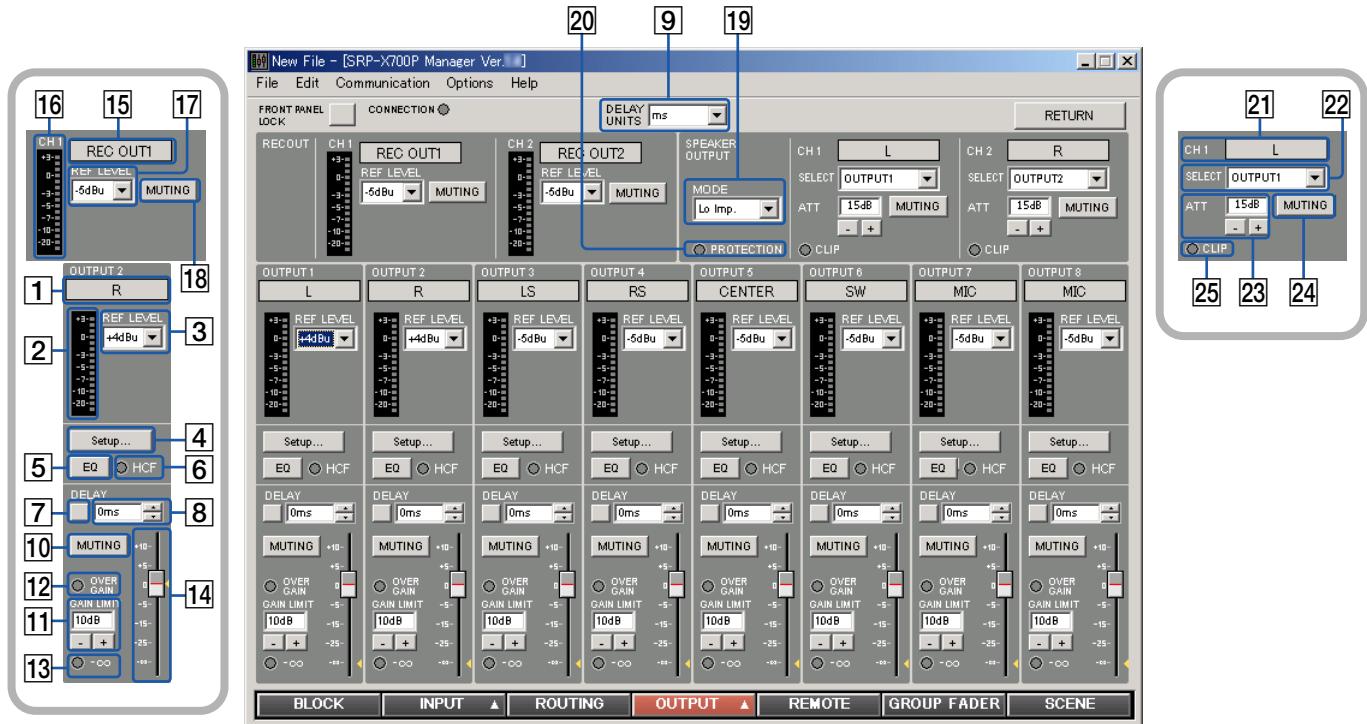
1.4 OUTPUT画面

SRP-X700P出力部のパラメーター設定をおこなう画面です。

1.4.1 OUTPUT OVERVIEW画面

オーディオミキサーのアウトプットモジュールに相当する画面で以下の設定をおこないます。

OUTPUT1～OUTPUT8は、本体のLINE OUTPUT1～LINE OUTPUT8端子に相当します。



① OUTPUTインデックス

BLOCK画面で入力したインデックスを表示します。

② OUTPUTレベルメーター

出力信号レベルをVU応答にて表示します。

③ REF LEVEL選択ボックス

出力チャンネルごとに基準出力レベルを設定します。

OUTPUT1,2は-10/-5/0/+4dBu、OUTPUT3～8は-10/-5/0dBuの中から選択できます。

④ Setup...ボタン

クリックするとOUTPUT EQ画面へジャンプします。

⑤ EQ(イコライザー)ボタン

イコライザーのON/OFFをおこないます。

ONのときは緑に点灯します。

⑥ HCF(ハイカットフィルター)インジケーター

ハイカットフィルターがONのときに緑に点灯します。

⑦ DELAYボタン

ディレイのON/OFFをおこないます。

ONのときは緑に点灯します。

⑧ DELAY値設定ボックス

ディレイ値を設定します。▲▼ボタンをクリックすることで時間0ms～150.8msの範囲で2.9msステップ、距離0m～52mの範囲で1mステップまたは0ft～173.3ftの範囲で3.33ftステップで設定できます。また、数値を直接入力することもできます。単位の切り替えは⑨DELAY UNITS設定ボックスでおこないます。

⑨ DELAY UNITS設定ボックス

ディレイタイムの単位を選択します。クリックすると単位が表示されるので希望の単位を選択します。

- ・時間単位 ms
- ・距離単位 meter、feet

⑩ MUTINGボタン

各チャンネルの出力信号をミューティングします。ミューティング中は赤く点灯します。

⑪ GAIN LIMITと⑫ OVER GAINインジケーター

出力チャンネルの送出レベルは、GROUP FADER画面・REMOTE画面の設定によっては本体のマスターボリュームおよびリモート端子の両方から音量コントロールができます。

このように複数のボリュームによるレベルの上げ過ぎを防ぐために⑪ GAIN LIMITで送出レベルの上限を決めることができます。+/-ボタンをクリックすることにより+10dB～-10dBの範囲で1dBステップで調整できます。また、数値の直接入力もできます。

送出レベルがGAIN LIMITの値を超えたときに実際のレベルはGAIN LIMITの値に設定され⑫ OVER GAINインジケーターが赤く点灯します。

⑬ -∞インジケーター

ミューティング中や、OUTPUTフェーダーが-∞レベルの位置にあるときなど、音が出ないときに黄色く点灯します。

画面各部の名前と機能

14 OUTPUTフェーダー

フェーダー部分をドラッグすることにより、OUTPUTフェーダーを操作できます。

フェーダー横に表示される黄色いマーカーはOUTPUTフェーダー位置を表示します。

また、REMOTE画面、GROUP FADER画面にてこの出力チャンネルの音量をコントロールするよう設定されているとき、本体のマスター・ボリューム、REMOTE端子からのコントロールを受けたフェーダー位置を表示します。(図2では、黄色いマーカーの位置は-15dBになります。)

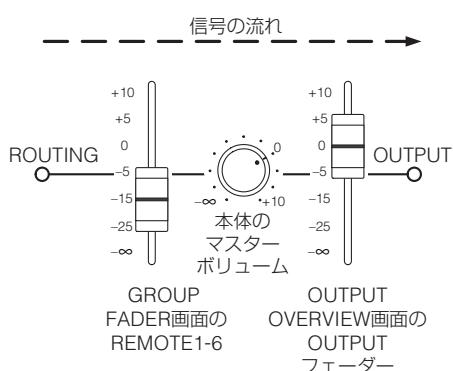


図2

15 REC OUTインデックス

BLOCK画面で入力したインデックスを表示します。

16 REC OUTレベルメーター

出力信号レベルをVU応答にて表示します。

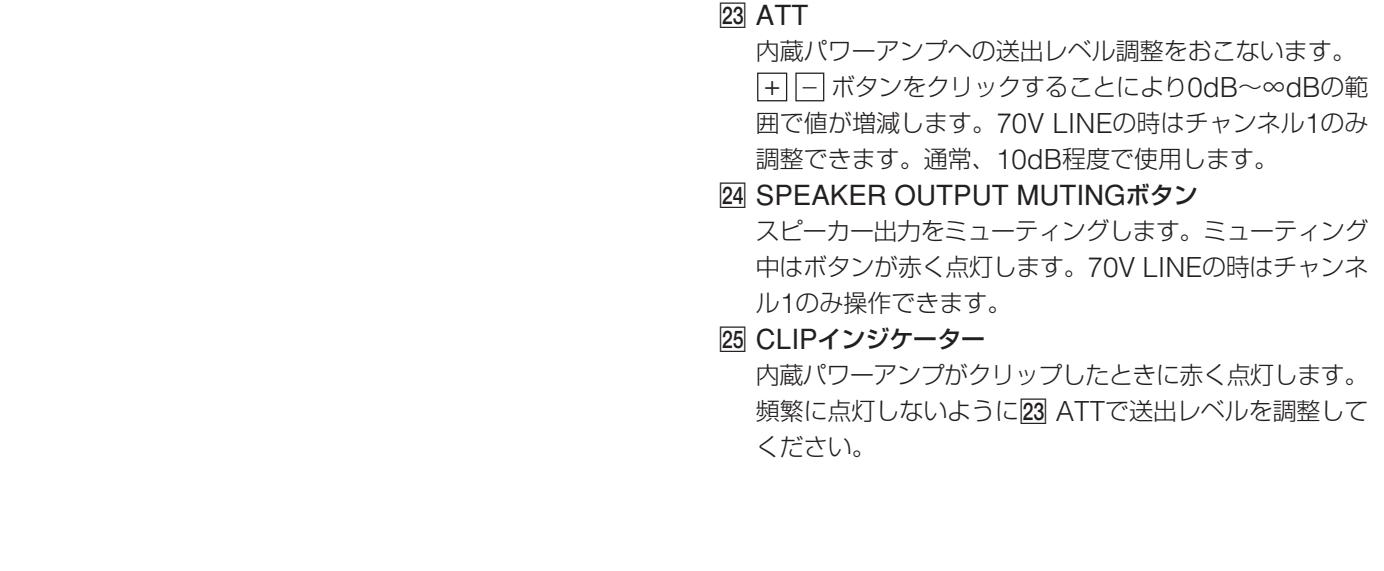
17 REC OUT REF LEVEL選択ボックス

出力チャンネルごとに基準出力レベルを設定します。

RECOUTは-10/-5/0dBuの中から選択できます。

18 REC OUT MUTINGボタン

各チャンネルの出力信号をミューティングします。ミューティング中はボタンが赤く点灯します。



パワーアンプ部

19 動作モード設定ボックス

接続するスピーカーの種類によりモードを選択します。

Lo Imp. : ローインピーダンス(4Ω~16Ω)のスピーカーを接続します。

70V LINE : ハイインピーダンス(32Ω~10kΩ)のスピーカーを接続します。

70V LINEの場合はセレクタ、アッテネーターはチャンネル1の設定が有効になります。

20 PROTECTIONインジケーター

内蔵パワーアンプの保護回路が動作しているときに赤く点灯します。

ご注意

PROTECTIONインジケーターが点灯したら

次のような場合は、保護回路が動作して(PROTECTIONインジケーターが点灯)、出力信号を下げる、またはカットすることによって、スピーカーやアンプを保護します。

- ・アンプ内部の放熱器の温度が規定値を超えた場合。
- 接続したスピーカーのインピーダンスが低すぎる場合。
空気吸排気孔(本体左右側面)がほこりによりふさがれている場合。
- ・SPEAKER端子をショートした場合。
このような場合はPOWERスイッチをOFFにし、原因を取り除いた後にご使用ください。
- ・故障によりDC(直流電圧)がSPEAKER端子に現れた場合。
POWERスイッチをOFFにしたのち、お買い上げ店または添付の「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にあるお近くのサービス窓口にご相談ください。

21 SPEAKER OUTPUTインデックス

BLOCK画面で入力したインデックスを表示します。

22 SELECT設定ボックス

内蔵パワーアンプへ入力する信号を選択します。

70V LINEの時はチャンネル1の設定のみが有効です。

23 ATT

内蔵パワーアンプへの送出レベル調整をおこないます。

[+/-]ボタンをクリックすることにより0dB~∞dBの範囲で値が増減します。70V LINEの時はチャンネル1のみ調整できます。通常、10dB程度で使用します。

24 SPEAKER OUTPUT MUTINGボタン

スピーカー出力をミューティングします。ミューティング中はボタンが赤く点灯します。70V LINEの時はチャンネル1のみ操作できます。

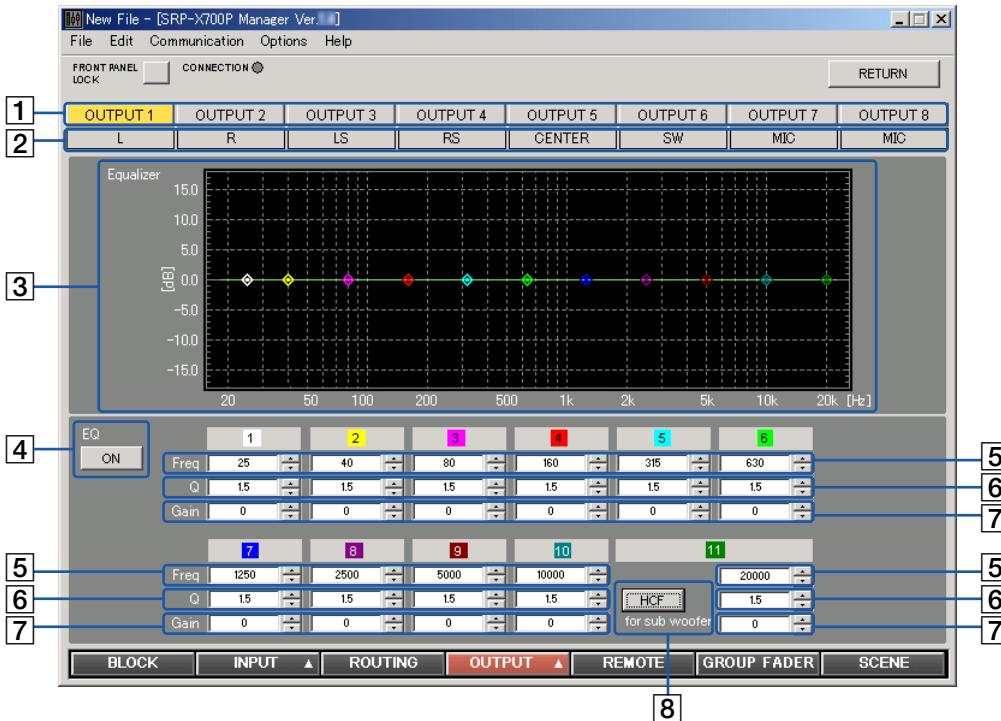
25 CLIPインジケーター

内蔵パワーアンプがクリップしたときに赤く点灯します。

頻繁に点灯しないように[23] ATTで送出レベルを調整してください。

1.4.2 OUTPUT EQ画面

SRP-X700P出力部のイコライザーの設定をおこなう画面です。



① チャンネル選択ボタン

設定をおこなうOUTPUTチャンネルを選択します。
選択されたチャンネル選択ボタンが黄色く点灯します。

② OUTPUTインデックス

BLOCK画面で入力したインデックスを表示します。

③ 周波数特性グラフ

ハイカットフィルター、パラメトリックイコライザーの周波数特性を表示します。

イコライザ一部

OUTPUT1,OUTPUT2は11バンド、OUTPUT3～OUTPUT8は4バンドのパラメトリックイコライザーを装備しています。▲▼ボタンをクリックすることで各バンドごとに以下のパラメーターを可変できます。また数値を直接入力することもできます。中心周波数とGAINについてはマーク部分をマウス等でドラッグすることにより可変できます。また、マーク部分を右クリックするとゲインを0dBに戻します。

④ EQ(イコライザ)ボタン

イコライザのON/OFFを切り替えます。
ONのときは緑に点灯します。

⑤ 周波数設定ボックス

25Hz～100Hz、14kHz～20kHzは1/3octステップ、
100Hz～14kHzは1/12octステップで設定できます。

⑥ Q設定ボックス

0.15～22の範囲で設定できます。

⑦ GAIN設定ボックス

-15dB～+15dBの範囲でGAINを0.5dBステップで設定できます。

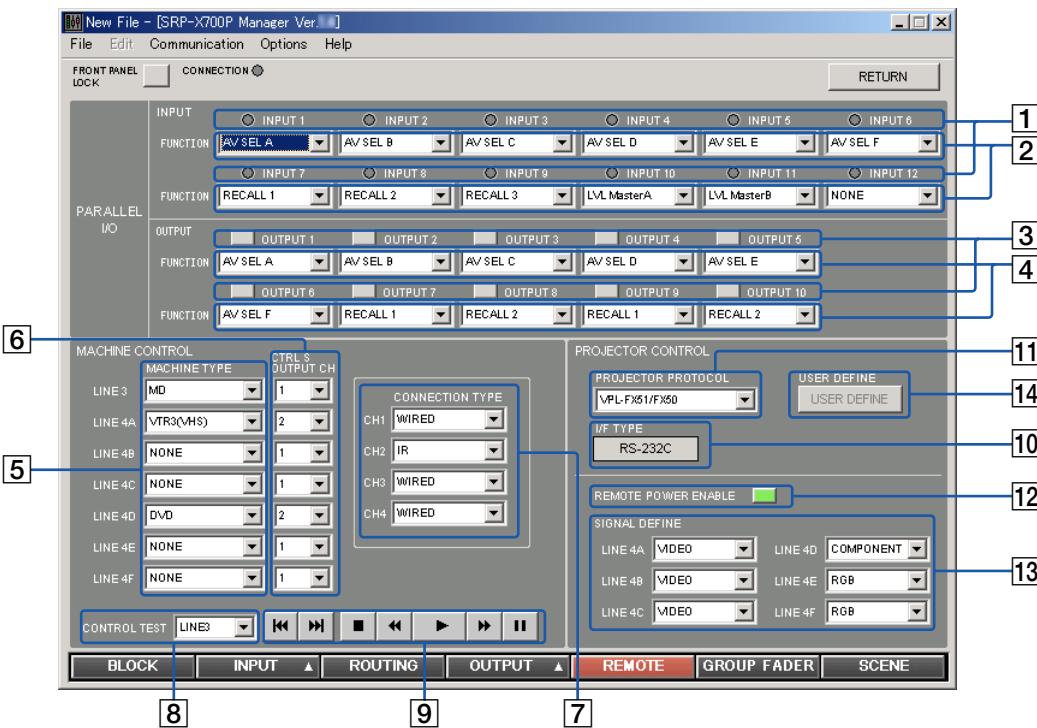
⑧ HCF(ハイカットフィルター)ボタン

90HzハイカットフィルターのON/OFFをおこないます。
該当の出力にサブウーハーを接続し、拡声をおこなう場合に使用します。ONのときは緑に点灯して、パラメトリックイコライザのバンドが1つ減ります。(DVDなど5.1ch Audioを再生するだけのアプリケーションではHCFは必要ありません。)

画面各部の名前と機能

1.5 REMOTE画面

リモート端子の設定をおこなう画面です。



PARALLEL I/O部

① PARALLEL INPUTインジケーター

REMOTE PARALLEL端子の状態を表示します。
INPUT端子がON(0.8V以下)のときは緑に点灯します。
仕様は本体の取扱説明書(P.11)をご覧ください。

② PARALLEL INPUT FUNCTION設定ボックス

入力チャンネルごとに機能を設定します。
設定手順については次ページのPARALLEL I/Oのパラメーター設定をご覧ください。

③ PARALLEL OUTPUTボタン

REMOTE PARALLEL端子の状態を表示します。
OUTPUT端子がONのときは緑に点灯します。
このボタンを押すことにより、REMOTE PARALLEL端子のOUTPUT端子に接続している機器の動作テストをおこなうことができます。

④ PARALLEL OUTPUT FUNCTION設定ボックス

出力チャンネルごとに機能を設定します。
設定手順については次ページのPARALLEL I/Oのパラメーター設定をご覧ください。

MACHINE CONTROL部

コントロールS出力端子によりソニー製機器をコントロールするための設定をおこないます。接続方法等の詳細は本体の取扱説明書(P.12)をご覧ください。

⑤ MACHINE TYPE設定ボックス

LINE3, LINE4A～4Fに接続する機器の種類を選択します。コントロール可能な機器の種類が表示されるので接続する機器に応じて選択します。

⑥ CTRL S OUTPUT CH設定ボックス

LINE3, LINE4A～4Fの機器へ接続するコントロールS出力端子のチャンネルを選択します。

⑦ CONNECTION TYPE設定ボックス

- ⑥ コントロールS出力端子の各チャンネルについて接続形式を選択します。
- ・ WIRED : コントロールS入力端子をもつ機器を接続する場合
 - ・ IR : コントロールS入力端子をもたない機器をコントロールするため別売のAVマウス(VM-50)を接続する場合

⑧ TEST機器選択ボックスと⑨ CONTROLボタン

⑧ TEST機器選択ボックスでテストしたい機器を接続している端子を選択し、⑨ CONTROLボタンでテスト用のコマンドをおくります。送信できるコマンドはPREV.(前トラック)NEXT(次トラック)STOP(停止)REW.(巻き戻し)PLAY(再生)F.F.(早送り)PAUSE(一時停止)です。

PROJECTOR CONTROL部

プロジェクターをコントロールするための設定をおこないます。詳細は本体の取扱説明書(P.10)をご覧ください。

⑩ I/F TYPE

⑪ PROJECTOR PROTOCOL設定ボックスで選択したプロジェクターに対応している接続方法が表示されます。

⑫ PROJECTOR PROTOCOL設定ボックス

PROJECTOR CONTROL端子に接続するプロジェクターを選択します。

USER DEFINEを選択すると、USER DEFINE画面で設定した通信プロトコルを使用してプロジェクターの制御をおこないます。

USER DEFINE画面にてプロジェクターとの通信プロトコルを設定することにより、標準でサポートされていないプロジェクターを接続することができます。

USER DEFINEを選択したとき、⑩ I/F TYPEはRS-232Cになります。

💡 USER DEFINEを選択して⑭ USER DEFINEボタンをクリックすると、プロジェクターとの通信プロトコルを設定することができます。

⑬ REMOTE POWER ENABLEボタン

プロジェクターの電源を本体の電源ボタンと連動させます。連動のとき緑に点灯します。

⑯ SIGNAL DEFINE設定ボックス

LINE4入力のチャンネルごとにプロジェクターへ送る信号方式を設定します。

- LINE4A～4C：VIDEO, S VIDEO, LANの中から選択できます。
- LINE4D～4F：RGB, COMPONENT, LANの中から選択できます。

LANを選択したときは、プロジェクターのLAN用の入力端子が選択されます。

ご注意

- ・プロジェクターとコントロールSにて接続しているとき、RGBとCOMPONENTの混在はできません。
- ・LANを選択するときは、LAN対応しているプロジェクターをご使用ください。

⑭ USER DEFINEボタン

PROJECTOR PROTOCOL設定ボックスにUSER DEFINEを選択したときに使用する通信プロトコルを設定するUSER DEFINE画面を呼び出します。

USER DEFINE画面にてインデックスを設定するとボタン上にそのインデックスが表示されます。

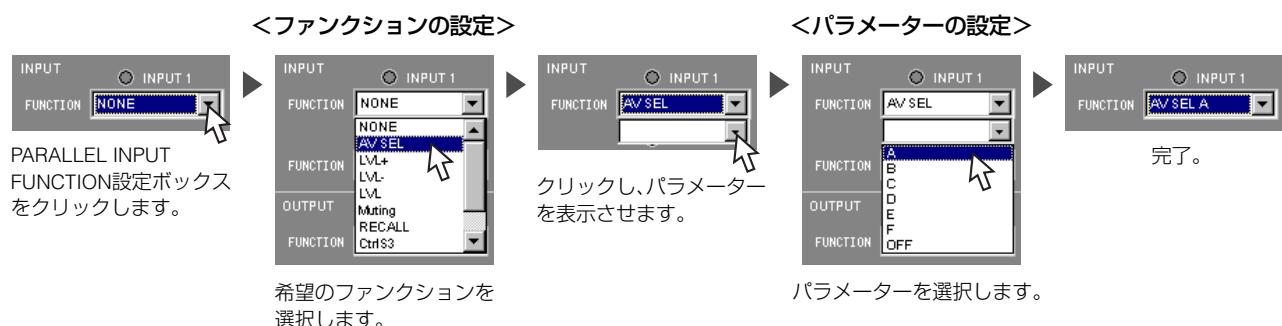
ご注意

PROJECTOR PROTOCOL設定ボックスでUSER DEFINEを選択しないとクリックすることができません。

PARALLEL I/Oのパラメーター設定

REMOTE画面のFUNCTION設定手順

(例) PARALLEL INPUT 1がONのとき、LINE4の入力をAに設定するための手順



* 各項目の内容については、P.22の表を参照し同様におこないます。

画面各部の名前と機能

PARALLEL INPUT FUNCTION設定ボックスのパラメーター

ファンクション	パラメーター
NONE : 機能を設定しません。	_____
AV SEL : LINE4の入力を選択します。	A : Aを選択します。 F : Fを選択します。 OFF : オフ状態にします。
LVL+ : 外部スイッチにより音量を上げます。 LVL- : 外部スイッチにより音量を下げます。 LVL : 外部ボリュームにより音量調整をおこないます。 Muting : ミューティングします。	Mic1 : マイク1を選択します。 Mic4 : マイク4を選択します。 Mic5Line1 : マイク5/ライン1を選択します。 Mic6Line2 : マイク6/ライン2を選択します。 Line3 : ライン3を選択します。 Line4 : ライン4を選択します。 Out1 : 出力1チャンネルを選択します。 Out8 : 出力8チャンネルを選択します。 MasterA : マスターAを選択します。 MasterB : マスターBを選択します。 Remote1 : リモート1を選択します。 Remote6 : リモート6を選択します。
RECALL : 希望のシーン番号を呼び出します。	1 : シーン番号1を呼び出します。 20 : シーン番号20を呼び出します。
LINE3 Control : LINE3に接続した機器の制御をします。 LINE4 Control : LINE4に接続した機器の制御をします。	Play : 再生を始めます。 Pause : 再生や録音を一時停止または再開します。 Stop : 再生や録音などを止めます。 FF : 早送り再生をします。 Rew : 巻き戻し再生をします。 Rec : 録音を始めます。 Next : 次トラックへ進みます。 Prev : 前トラックへ戻ります。 On : 電源をオンします。 Standby : 電源をスタンバイにします。
PJ Power : プロジェクターの電源を制御します。 (パラレル入力端子がONの場合はプロジェクターの電源をオンに、OFFの場合はプロジェクターの電源をスタンバイにします。)	_____

PARALLEL OUTPUT FUNCTION設定ボックスのパラメーター

ファンクション	パラメーター
NONE : 機能を設定しません。	_____
AV SEL : LINE4の入力を選択したときのタリー信号を出力します。	A : Aを選択します。 F : Fを選択します。 OFF : オフを選択します。
-∞ : -∞インジケーターが点灯したときのタリー信号を出力します。 Over : Overインジケーターが点灯したときのタリー信号を出力します。	Mic1 : マイク1を選択します。 Mic4 : マイク4を選択します。 Mic5Line1 : マイク5/ライン1を選択します。 Mic6Line2 : マイク6/ライン2を選択します。 Line3 : ライン3を選択します。 Line4 : ライン4を選択します。 Out1 : 出力1チャンネルを選択します。 Out8 : 出力8チャンネルを選択します。 MasterA : マスターAを選択します。 MasterB : マスターBを選択します。
RECALL : 希望のシーン番号を呼び出したときのタリー信号を出力します。	1 : シーン番号1を選択します。 20 : シーン番号20を選択します。
PJ Power : プロジェクターの電源を制御したときのタリー信号	On : 電源オンを選択します。 Standby : 電源スタンバイを選択します。

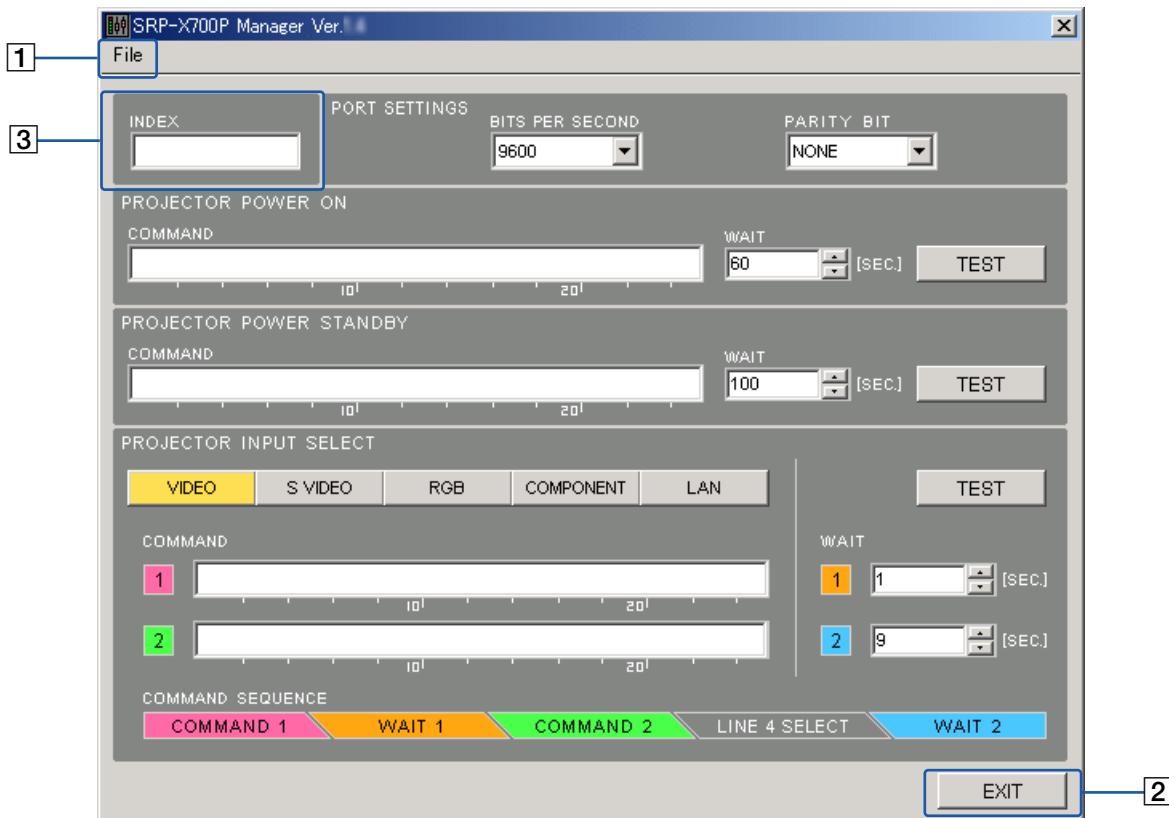
USER DEFINE画面

PROJECTOR PROTOCOL設定ボックスにUSER DEFINEを選択したときに使用する通信プロトコルを設定する画面です。

USER DEFINEを選択したとき、プロジェクターはPROJECTOR CONTROL RS-232C端子へ接続します。この画面で本機とプロジェクターとの通信プロトコルを設定することにより、標準でサポートされていないプロジェクターを使用することができます。

ご注意

全てのプロジェクターの動作を保障するものではありません。



① Fileメニュー

USER DEFINE画面で入力した設定をプロジェクター設定ファイル(*.pj7)として、保存・読み込みすることができます。

Open : 既存のプロジェクター設定ファイルを開く

Save : プロジェクター設定ファイルを上書き保存する

Save as : プロジェクター設定ファイルに名前を付けて保存する

② EXITボタン

USER DEFINE画面を閉じます。

③ インデックス設定

プロジェクターのインデックスを入力します。

半角英数で8文字入力できます。

全角入力はできません。

ここで設定したインデックスが、REMOTE画面のUSER DEFINEボタンに表示されます。

ご注意

プロジェクター設定ファイルとして保存・読み込みされるのはUSER DEFINE画面の設定のみで、その他の画面の設定については保存・読み込みはおこなわれません。

USER DEFINE画面とその他の画面の全設定について、保存・読み込みをおこなうときは、7ページ「共通操作部」のFileメニューをご覧ください。

画面各部の名前と機能

ポート設定

本体とプロジェクターとの通信条件を設定します。



④ BITS PER SECOND設定ボックス

通信速度を設定します。

プロジェクターの通信速度に応じて9600/19200/
38400bpsの中から選択します。

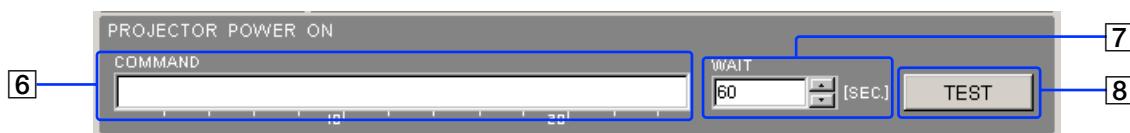
⑤ PARITY BIT設定ボックス

パリティビットを設定します。

プロジェクターの通信データ仕様に応じてNONE(なし)、ODD(奇数)、EVEN(偶数)の中から選択します。

プロジェクター電源オン設定

プロジェクターを電源オンさせるためのコマンドと、コマンド送信後の待ち時間を設定します。



⑥ COMMAND設定ボックス

プロジェクターを電源オンするために本体からプロジェクターへ送信するコマンドを設定します。

コマンドは数字の0~9とアルファベットのA~Fを組み合わせた16進数で設定します。

最長24バイトまで設定できます。

⑦ WAIT設定ボックス

プロジェクターは電源オンすると動作が安定するまでの間、コマンドの受信をおこなわなくなります。

そのため、この設定ボックスで本体からプロジェクターへ電源オンコマンドを送信してから、次のコマンド送信するまでの待ち時間を設定します。

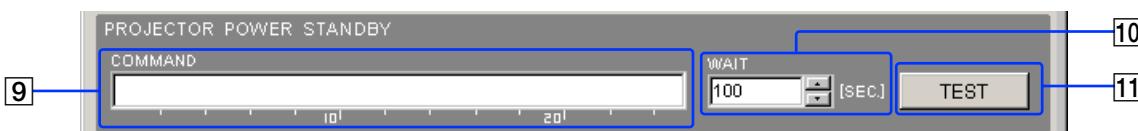
10~200秒の範囲で10秒ステップで設定できます。

⑧ TESTボタン

プロジェクター電源オンコマンドのテスト送信をおこないます。

プロジェクター電源スタンバイ設定

プロジェクターを電源スタンバイさせるためのコマンドと、コマンド送信後の待ち時間を設定します。



⑨ COMMAND設定ボックス

プロジェクターを電源スタンバイするために本体からプロジェクターへ送信するコマンドを設定します。

コマンドは数字の0~9とアルファベットのA~Fを組み合わせた16進数で設定します。

最長24バイトまで設定できます。

⑩ WAIT設定ボックス

プロジェクターは電源スタンバイするとスタンバイ動作が完了するまでの間、コマンドの受信をおこなわなくなります。

そのため、この設定ボックスで本体からプロジェクターへ電源スタンバイコマンドを送信してから、次のコマンド送信するまでの待ち時間を設定します。

10~200秒の範囲で10秒ステップで設定できます。

⑪ TESTボタン

プロジェクター電源スタンバイコマンドのテスト送信をおこないます。

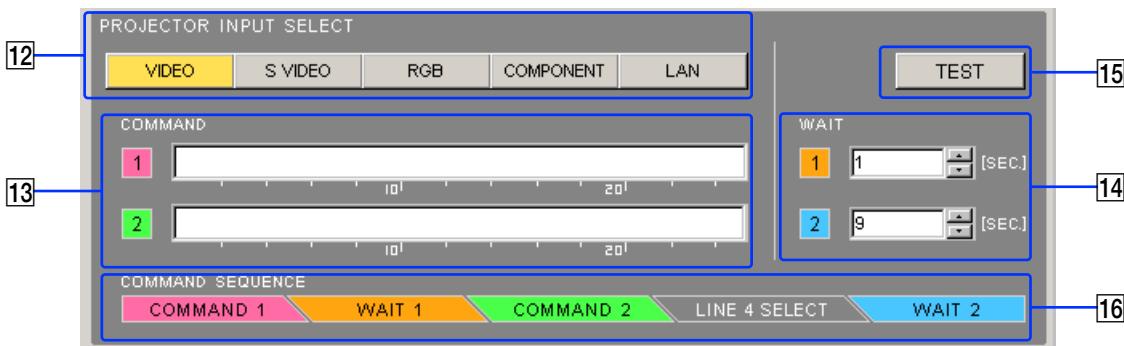
入力選択コマンド設定

本体のLINE4 SELECTの選択に応じて、プロジェクターの入力端子を選択するためのコマンドとコマンド送信後の待ち時間を設定します。

本機は映像の信号方式別に独立したスイッチャーを内蔵しており、LINE4 SELECTで選択したチャンネルの信号方式がVIDEO信号の場合はVIDEO出力端子、S VIDEO信号の場合はS VIDEO出力端子、RGB信号またはCOMPONENT信号の場合は5BNC端子へ出力されます。

そのためLINE4 SELECTで選択したチャンネルの信号方式に応じてプロジェクターの入力を選択するコマンドを本体から送り映像を映し出します。

入力選択コマンドは信号方式ごとに設定をおこない、ひとつの信号方式に最大2つのコマンドを設定できます。



⑫ 信号方式選択ボタン

入力選択コマンドを設定する信号方式を選択します。

⑬ COMMAND設定ボックス

プロジェクターの入力を選択するときに、本体からプロジェクターへ送信するコマンドを設定します。

コマンドは数字の0~9とアルファベットのA~Fを組み合わせた16進数で設定します。

各コマンドごとに最長24バイトまで設定できます。

1コマンドでプロジェクターの入力が選択できるモデルのときはCOMMAND設定ボックス1にのみコマンドを設定します。

1入力チャンネルで複数の映像信号方式に対応しているプロジェクターの中には、入力選択をおこなうときに映像信号方式選択コマンドと入力端子選択コマンドの2コマンドを必要とするモデルがあります。

このようなときはCOMMAND設定ボックス1へ映像信号方式選択コマンドを設定し、COMMAND設定ボックス2に入力端子選択コマンドを設定します。

コマンドは、後述のコマンドシーケンスの順番に従って本体からプロジェクターへ送信されます。

⑭ WAIT設定ボックス

プロジェクターによっては、入力選択をおこなったとき、およびプロジェクターへ入力される信号が切り換わったときの数秒間、コマンド受信をおこなわないモデルがあります。

そのため、WAIT1設定ボックスで本体からプロジェクターへCOMMAND1を送信してから次のコマンド送信するまでの待ち時間を、WAIT2設定ボックスでCOMMAND2を送信して本体のLINE4 SELECTの切り換えをおこなってから、次のコマンド送信するまでの待ち時間を設定します。

1~20秒の範囲で1秒ステップで設定できます。

この設定は全ての信号方式で共通です。

⑮ TESTボタン

入力選択コマンドのテスト送信をおこないます。

⑯ コマンドシーケンス

LINE 4 SELECTの選択チャンネルが変更されたとき、本体がおこなう動作の順番を示します。

動作の順番はCOMMAND1を送信→WAIT1の時間待ち→COMMAND2を送信→本体のLINE4 INPUTの選択チャンネル変更→WAIT2の時間待ちとなります。

画面各部の名前と機能

接続可能なプロジェクター

次の仕様を満たすプロジェクターを接続することができます。

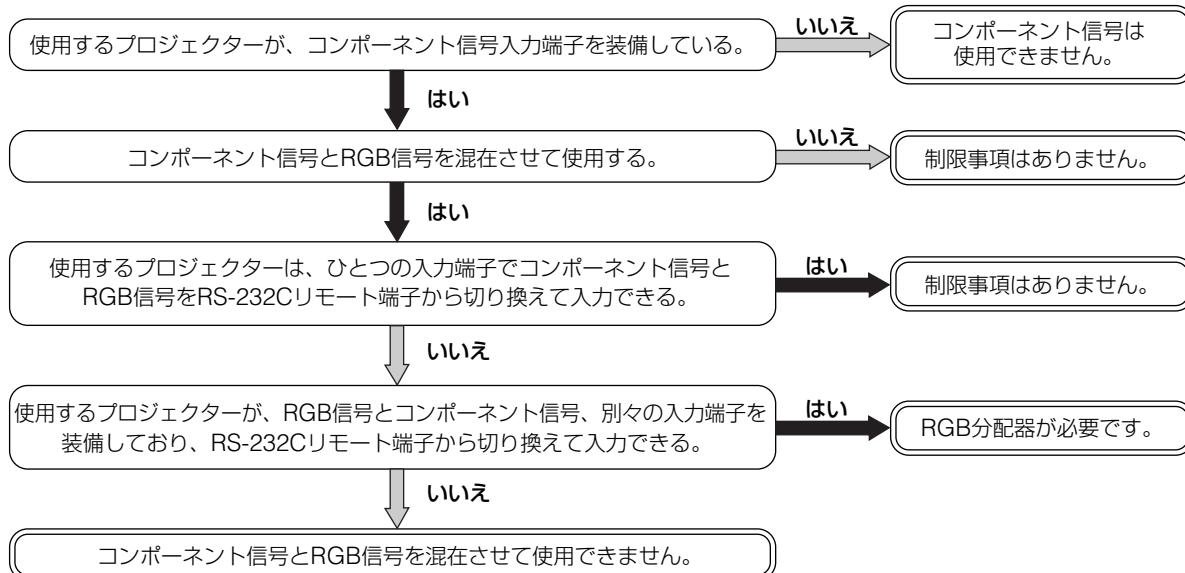
- ・ RS-232Cリモート端子を装備していること
- ・ RS-232Cリモート端子が次の仕様であること
 - 電気特性 : RS-232C準拠
 - ボーレート : 9600bps、19200bps、38400bpsのいずれか
 - パリティビット : 無し、奇数、偶数のいずれか
 - データ長 : 8ビット
 - トップビット : 1ビット
 - フロー制御 : 無し
- ・ RS-232Cリモート端子から電源オン、電源スタンバイ、および入力端子の選択がおこなえること。

映像信号方式と制限事項

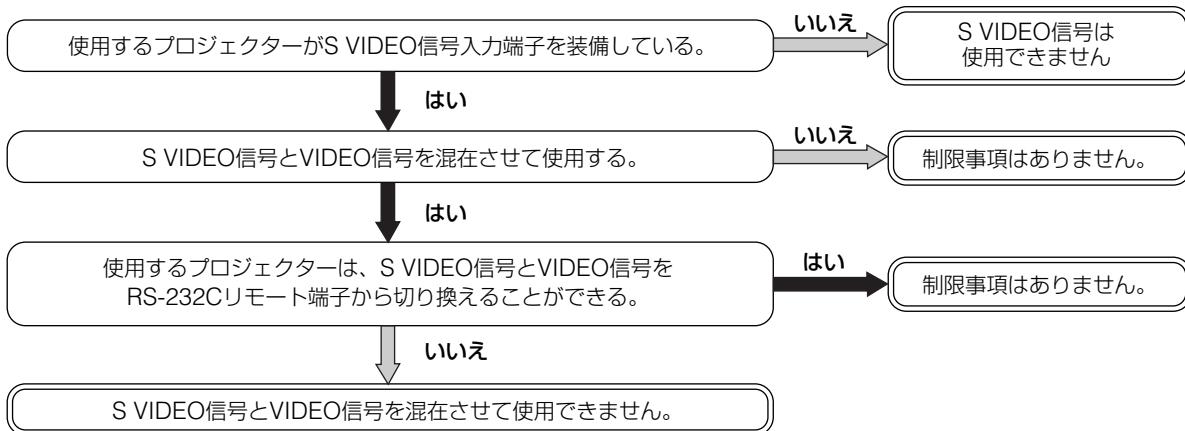
使用する映像信号方式および使用方法によって制限事項があります。

制限事項は次のようにになります。

- ・コンポーネント信号を使用する場合

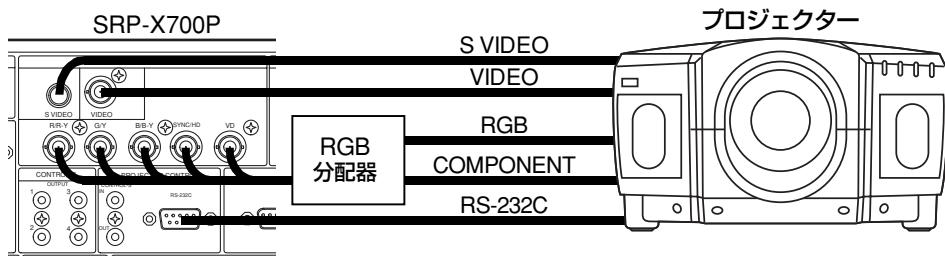


- ・S VIDEO信号を使用する場合



プロジェクターとの接続

プロジェクターとの接続方法は、本体の取扱説明書「工場出荷設定を使用したシステム例」(P.13)をご覧ください。プロジェクターとの接続にRGB分配器が必要なときは下図のよう接続してください。



通信プロトコルの設定方法

通信プロトコルの設定は次の手順にておこないます。

1. ポート設定

接続するプロジェクターの通信条件に合わせて、BITS PER SECOND設定ボックス、PARITY BIT設定ボックスの設定をおこないます。

2. プロジェクター電源オン設定

- ① プロジェクター電源オン設定のCOMMAND設定ボックスに、接続するプロジェクターの電源オンコマンドを入力します。
- ② WAIT設定ボックスを60秒に設定しておき、動作確認のときに再調整をおこないます。

ご注意

プロジェクターへ送信するコマンドがASCIIコードで規定されているときは、ASCIIコードを16進数に変換してCOMMAND設定ボックスへ入力します。

3. プロジェクター電源スタンバイ設定

- ① プロジェクター電源スタンバイ設定のCOMMAND設定ボックスに、接続するプロジェクターの電源スタンバイコマンドを入力します。
- ② WAIT設定ボックスを100秒に設定しておき、動作確認のときに再調整をおこないます。

4. 入力選択コマンド設定

① 信号方式選択ボタンで各信号方式を選択し、次のようにCOMMAND設定ボックスへコマンドを入力します。

- ・ コマンドを1つ送信するだけでプロジェクターの入力が選択できるときは、COMMAND1へ入力選択コマンドを入力し、COMMAND2は未設定(空白)にします。
- ・ プロジェクターの入力選択に信号方式選択コマンドと入力端子選択コマンドの2つのコマンドが必要なとき、COMMAND1へは信号方式選択コマンドを入力し、COMMAND2には入力端子選択コマンドを入力します。

設定例

VIDEO、S VIDEO、COMPONENT、RGBの信号方式を使用。

入力の選択にVIDEO、S VIDEOでは1コマンド、COMPONENTとRGBでは2コマンド必要なとき、次のように設定します。

信号方式	COMMAND 1	COMMAND 2
VIDEO	VIDEO入力端子選択コマンド	未設定
S VIDEO	S VIDEO入力端子選択コマンド	未設定
COMPONENT	COMPONENT信号選択コマンド	COMPONENT/RGB入力端子選択コマンド
RGB	RGB信号選択コマンド	COMPONENT/RGB入力端子選択コマンド
LAN	未設定	未設定

- ② WAIT設定ボックスは、WAIT1を1秒、WAIT2を9秒に設定しておき、動作確認のときに再調整をおこないます。

画面各部の名前と機能

5. TESTボタンによる入力選択動作確認

- ① 本体のLINE4 INPUTに信号を入力しないで、信号方式選択ボタンでVIDEOを選択し入力選択コマンド設定のTESTボタンを押します。
- ② プロジェクター本体の入力がVIDEOになることを確認します。
- ③ 全信号方式について①,②の確認をおこないます。

入力選択が正常におこなわれないときは、ポート設定および入力選択コマンド設定のCOMMAND1、COMMAND2のコマンド入力に間違いかないか確認してください。

設定が正しければ、WAIT1設定ボックスを1ステップずつ長くしながら動作確認をおこない正常に動作する時間に設定します。

6. 本体のLINE4 SELECTボタンによる動作確認

- ① REMOTE画面のSIGNAL DEFINE設定ボックスを実際に使用する状態に設定します。
- ② 本体のLINE4 INPUTの全チャンネルに信号を入力し、LINE4 SELECTボタンを操作してプロジェクターから映像が出力されることを確認します。
- ③ LINE4 SELECTボタンの操作をA→B, A→C, A→D, A→E, A→F ··· ··· F→A, F→B, F→C, F→D, F→Eと全パターンについておこない映像が出力されることを確認します。
- ④ LINE4 SELECTボタンの操作をランダムに数回おこない、最後に押されたボタンの映像が出力されることを確認します。
- ⑤ ④の動作確認を10回以上おこないます。

映像が出力されないときは、REMOTE画面のSIGNAL DEFINE設定ボックスの設定およびプロジェクター本体の設定を確認してください。

設定が正しければ、次の手順でWAIT設定ボックスの設定時間を調整します。

- ① WAIT1とWAIT2の設定時間を同時に1ステップずつ長くしながら動作確認をおこない正常に選択される時間を設定します。
- ② WAIT1の設定時間を1ステップずつ短くしながら動作確認をおこない正常に選択される時間を設定します。
- ③ WAIT2の設定時間を1ステップずつ短くしながら動作確認をおこない正常に選択される時間を設定します。

 LINE4 SELECTボタンを操作してから映像が出力されるまでの時間を短くしたいときはWAIT1およびWAIT2の設定時間を最小時間に設定してから、「5. TESTボタンによる入力選択動作確認」と「6. 本体のLINE4 SELECTボタンによる動作確認」をおこなってください。

7. プロジェクター電源オン動作確認

- ① 本体のLINE4 SELECTボタンのAを押し、プロジェクターからの映像の出力を確認します。
- ② プロジェクター本体の入力選択スイッチを操作し映像が出力されない状態にします。
- ③ プロジェクター本体の電源スイッチでプロジェクターの電源をスタンバイにします。
- ④ プロジェクターが電源スタンバイ状態になったことを確認後、プロジェクター電源オン設定のTESTボタンを押します。
- ⑤ プロジェクターの電源オンとLINE4 INPUT Aの映像が出力されることを確認します。
- ⑥ LINE4 INPUT B~Fについて、①~⑤と同じ手順で動作の確認をおこないます。

電源オンがおこなわれないときは、COMMAND設定ボックスのコマンドに間違いかないか確認します。

映像が出力されないときはプロジェクター電源オン設定のWAIT設定ボックスを1ステップずつ長くしながら動作確認をおこない正常に動作する時間に設定します。

 プロジェクターの電源をオンしてから映像が出力されるまでの時間を短くしたいときはWAIT設定ボックスの設定時間を1ステップずつ短くしながら動作確認をおこない正常に動作する時間に設定します。

8. プロジェクター電源スタンバイ動作確認

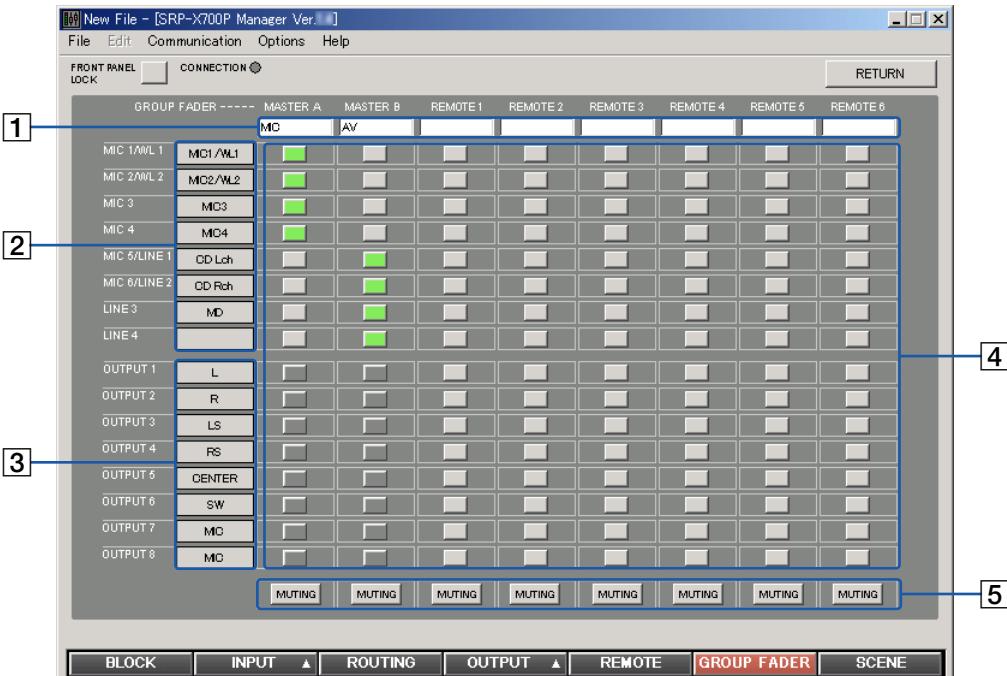
- ① プロジェクター電源スタンバイ設定のTESTボタンを押し、プロジェクターが電源スタンバイになることを確認します。
- ② プロジェクター電源オン設定のTESTボタンを押しプロジェクターの電源をオンにします。
- ③ 本体のLINE4 SELECTボタンのAを押しプロジェクターからの映像の出力を確認します。
- ④ プロジェクター電源スタンバイ設定のTESTボタンを押してから約3秒後にプロジェクター電源オン設定のTESTボタンを押します。
- ⑤ プロジェクターが電源スタンバイ動作を開始することを確認します。
- ⑥ プロジェクター電源スタンバイ設定のWAIT時間経過後、プロジェクターの電源がオフになり、LINE4 INPUT Aの映像が正常に出力されることを確認します。

プロジェクターの電源がスタンバイにならないときは、COMMAND設定ボックスのコマンドに間違いかないか確認します。

プロジェクターの電源がオフされないときは、プロジェクター電源スタンバイ設定のWAIT設定ボックスを1ステップずつ長くしながら動作確認をおこない正常に動作する時間に設定します。

1.6 GROUP FADER画面

リモート端子や本体のマスター音量から複数の内部フェーダーを同時に動かすために、フェーダーのグループ設定をおこなう画面です。



① FADER GROUPインデックス

フェーダーグループのインデックスを入力します。半角英
数8文字、全角の場合4文字まで入力できます。

② INPUTインデックス

BLOCK画面で入力したINPUTインデックスを表示しま
す。

③ OUTPUTインデックス

BLOCK画面で入力したOUTPUTインデックスを表示し
ます。

④ フェーダー選択ボタン

同時に動かすフェーダーを選択します。
選択されたボタンは緑に点灯します。

ご注意

INPUTフェーダーとOUTPUTフェーダーを同じグループに混在
させることはできません。

⑤ MUTINGボタン

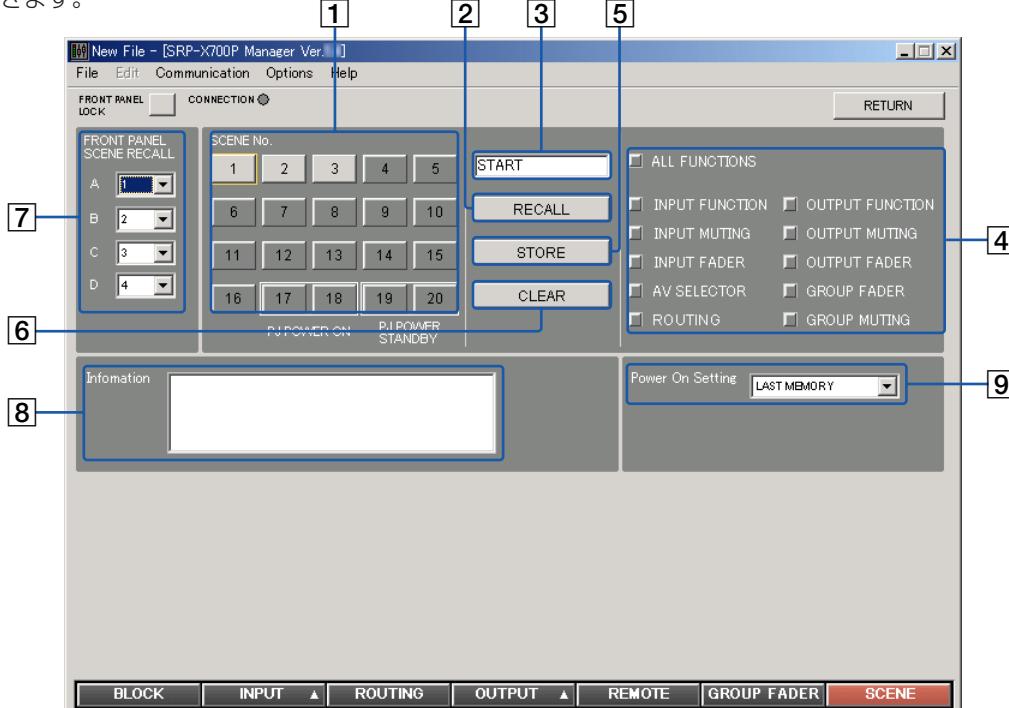
フェーダーグループごとにミューティングできます。
ミューティング中は赤く点灯します。

画面各部の名前と機能

1.7 SCENE画面

シーンの設定等をおこなう画面です。

INPUT、ROUTING、OUTPUT、GROUP FADERの各画面での設定を本体内蔵のメモリに記憶したり、シーンメモリから呼び出すことができます。



シーン部

シーンの呼び出し、記憶、消去をおこないます。

設定したシーンを呼び出す

- ① SCENE No.ボタンで呼び出しをおこなうシーンNo.を選択します。
- ② RECALLボタンをクリックします。

設定したパラメーターを記憶する

- ① SCENE No.ボタンで記憶させるシーンNo.を選択します。
- ③ シーンインデックスを入力します。半角英数8文字、全角の場合4文字まで入力できます。
- ④ ファンクションエリアから記憶したい機能を選択します。シーンを呼び出したとき、ここで選択した機能のみ呼び出しがおこなわれます。
- ALL FUNCTIONSボタン
全てのファンクションを選択します。
- INPUT FUNCTIONボタン
MUTINGボタン、INPUTフェーダー、LINE4セレクトボタンを除くINPUT画面の全機能を書き込みます。
- INPUT MUTINGボタン
INPUT画面のMUTINGボタンの状態を書き込みます。
- INPUT FADERボタン
INPUTフェーダーを書き込みます。
- AV SELECTORボタン
LINE4セレクトボタンの状態を書き込みます。
- ROUTINGボタン
ROUTING画面のASSIGNボタンの状態を書き込みます。
- OUTPUT FUNCTIONボタン
MUTINGボタン、OUTPUTフェーダーを除くOUTPUT画面の全機能を書き込みます。

OUTPUT MUTINGボタン

OUTPUT画面のMUTINGボタンの状態を書き込みます。

OUTPUT FADERボタン

OUTPUTフェーダーを書き込みます。

GROUP MUTINGボタン

GROUP FADER画面のMUTINGボタンの状態を書き込みます。

GROUP FADERボタン

GROUP FADER画面のフェーダー選択ボタンの状態を書き込みます。

- ⑤ STOREボタンをクリックします。

設定したシーンを消去する。

- ① SCENE No.ボタンで消去するシーンNo.を選択します。
- ⑥ CLEARボタンをクリックします。

シーンリコールとプロジェクターの電源連動について

以下のSCENE No.がリコールされると、プロジェクターの電源をONまたはSTANDBYします。シーンリコールによってプロジェクターの電源を制御したい場合に使用します。

SCENE No.17, 18 : リコールされるとプロジェクターの電源をON

SCENE No.19, 20 : リコールされるとプロジェクターの電源をSTANDBY

[7] FRONT PANEL SCENE RECALL

本体前面のSCENE RECALLボタンA～Dからリコールするシーン番号(1～20)を設定します。

[8] Information

設定ファイルのコメントを入力します。半角英数128文字、全角の場合64文字まで入力できます。

[9] Power On Setting設定ボックス

電源投入時の本体の設定を選びます。クリックするとドロップダウンリストが表示されますので希望の設定を選択します。

- ・ LAST MEMORY : 前回の電源オフ直前の設定になります。
- ・ DEFAULT : 工場出荷時の設定になります。
- ・ SCENE No.1 : シーンNo.1が呼び出されます。

第2章 User Control Panel 編

User Control Panelは、プレゼンテーションにお使いのコンピューターなどから、SRP-X700Pをより簡単に操作することができるソフトウェアです。

ご注意

本体と接続後に起動してください。

本体と接続するには、USBケーブル(TYPE-B)が必要です。

画面各部の名前と機能



AV CONTROL部

LINE4に接続した機器の入力切換とリモートコントロールができます。



① LINE4入力セレクトボタン

本体のLINE4入力セレクトボタンのA～Fに対応します。ボタンには、SRP-X700P Managerによって本体に設定されたインデックスが表示されます。選択したボタンは緑に点灯します。

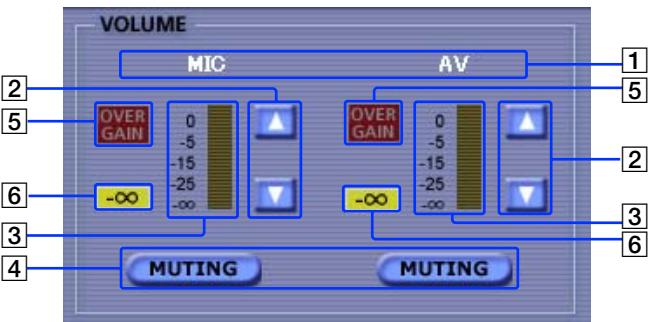
② REMOTE CONTROLボタン

LINE4入力セレクトボタンで選択した機器をリモートコントロールします。リモートコントロールできない機器が接続されている場合は、操作できません。

操作できるのはPREV.(前トラック)、NEXT(次トラック)、STOP(停止)、REW.(巻き戻し)、PLAY(再生)、F.F.(早送り)、PAUSE(一時停止)です。

VOLUME部

本体のMASTERボリュームのリモートコントロールとミューティングなどができます。



① MASTERインデックス

SRP-X700P Managerで設定したMASTER A・Bのインデックスを表示します。

② VOLUMEボタン

マスター音量のレベルを調節します。▲ ▼ ボタンをクリックすることにより値が増減します。(本体のボリュームツマミは動きません)ミューティング中は操作できません。

③ フェーダー位置インジケーター(MASTER A・B)VOLUME位置を表示します。

④ MUTINGボタン

MASTERチャンネルごとに、ミューティングします。ミューティング中は、赤く点灯してVOLUMEボタンは、操作できません。

⑤ OVER GAINインジケーター

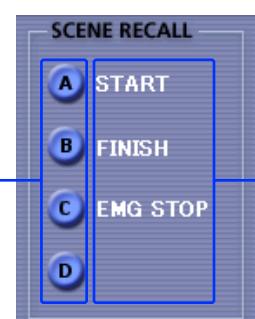
SRP-X700P Managerで設定したGAIN LIMIT以上にMASTERフェーダーを上げた時に赤く点灯します。GAIN LIMITで設定した値以上にボリュームを上げても音量はありません。

⑥ -∞インジケーター

ミューティング中や、MASTERフェーダーが-∞の位置にあるときなど、音が出ないときに黄色に点灯します。

SCENE RECALL部

SRP-X700P Managerを用いてあらかじめ記憶した、シーンの呼び出しができます。



① SCENE RECALLボタン

本体前面のSCENE RECALLボタンA～Dに対応します。選択したシーンのボタンは、緑に点灯します。

② SCENE RECALLインデックス

SRP-X700P Managerで設定したインデックスを表示します。

トラブル時の対処

サービス窓口にご相談になる前に下記の項目をもう1度チェックしてみてください。それでも具合の悪いときは、ソニーのサービス窓口にご相談ください。

症状	原因/対処
User Control Panelで操作できない SRP-X700P Managerで操作できない	<ul style="list-style-type: none">USBケーブルが接続されていない。 →USBケーブルとの接続を確認してください。専用USBドライバーがインストールされていない。 →専用USBドライバーをインストールしてください。(P.5参照)
User Control Panelでインデックスが表示されない	<ul style="list-style-type: none">インデックスが設定されていない。 →SRP-X700P Managerを用いてインデックスを設定してください。(P.9、P.29、P.30参照)
フェーダーをリモートコントロールできない	<ul style="list-style-type: none">本体と接続されていない。 →本体との接続を確認してください。GROUP FADER画面の設定を間違えている。 →GROUP FADER画面の設定を確認してください。(P.29参照)
音量の操作ができない。	<ul style="list-style-type: none">MUTINGされている。 →MUTINGを解除してください。(P.10、P.17、P.29参照)FRONT PANEL LOCKボタンがONになっている。 →FRONT PANEL LOCKボタンをOFFにしてください。(P.8参照)
OVER GAINインジケーターが点灯し続けている。 音量が一定以上あがらない。	<ul style="list-style-type: none">OVER GAINの設定値以上に音量をあげようとしている。 →フェーダーを下げてください。(P.11、P.18参照)GAIN LIMITを設定し直してください。(P.11、P.17参照)
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none">フェーダーが-∞になっている。 →フェーダーをあげてください。(P.11、P.18参照)MUTINGされている。 →MUTINGを解除してください。(P.10、P.17、P.29参照)
PROTECTIONインジケーターが点灯している。	<ul style="list-style-type: none">アンプ内部の放熱器の温度が規定値を超えた。 →POWERスイッチをOFFにして、温度上昇の原因を取り除いてください。接続したスピーカーのインピーダンスが低すぎる。 →POWERスイッチをOFFにして、適正なインピーダンスのスピーカーに接続し直してください。スピーカー端子がショートしている。 →POWERスイッチをOFFにして、ショートの原因を取り除いてください。
電源をOFFにすると設定したパラメーターが変わってしまう。	<ul style="list-style-type: none">Power On Setting設定がDEFAULT、またはSCENE No.1になっている。 →Power On Setting設定をLAST MEMORYにするか、SCENE No.1に設定する場合はシーンNo.1にパラメーターのストアをおこなってください。(P.31参照)